836
209
3

芳草年録

不懲迷語並外録

百十七

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

不徴迷語

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

不徴迷語巻之上、　己巳十一月 十二月

日録

一 文聰公墓誌

二 悼別歌

三 薩州藩知事願書

四 上毛高崎管内強訴可泉紀聞

五 雑説

六 薩藩二大隊兵東京到着面

七 風聞　己巳十一月十七日

八 己巳十一月十六日新任除列名

九 若松縣權大属海江某書柬副書

十 紀聞

十一 雑説　十一月二十日

十二 蒲治諸藩改革御獄願　亦巫偽人

十三 可泉筆記　十一月二十三日四日

十四 傳聞獲坂飯山黨俸

十五 傳聞密說　二十一日　己巳十二月十五日

十六 蝦夷地産物考略

十七 上田藩誌

十八 談記　依竹藩皇沼戰員

大正 5.27 購求

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一文鞆公墓誌　在二石棒一無二表裏一雕刻又甚
三寸五下四方明十三行十三字

故華族従四位滋野朝臣真田公、諱幸教、稱右京大夫、初伊豆守、又信濃守、少字雄若、従五位、諱幸良公之子、而従四位侍従、諱幸貫公之嫡孫也、嘉永二年己酉十二月、叙従五位、幸良公先卒、嘉永壬子五月、承幸貫公之後、嗣封為松代城主、安政四年丁巳十二月、叙従四位、慶應二年丙寅三月致

此ノ誌ヲ真田淀四位幸教公ノ遺蹟ヲ藏ム

仕、明治二年己巳十月十八日卒、
距生天保六年乙未十二月十三
日、享年三十五、以其月二十九日
葬於城東長國寺先塋之次、

負松院大夫人 柳沢氏

(一)さくらのちるをみても
うき世をばしばしとどめてしがな

真晴院 大君夫人 松平氏

(二)さくらちるしばしとどめてしがなと泣のこゝろもとゝろしをせん

村上氏

(三)ちるさくらなくねのこゝろおくるゝもいつれおつるなみだなるらん

一条 枝

(四)うき世をばとゝめてしがなさくらちるなみだのこゝろ
行末までと詠てわが世をも和のもりてまことにそうるさ

中光

(五)さくらちるしばしとゞめてしがなと泣のこゝろもとゝろしをせん
行末までと詠てわが世をも和のもりてまことにそうるさ

関 冬 (ゑめ)

(六)さくらちるしばしとゞめてしがなと泣のこゝろもとゝろしをせん
行末までと詠てわが世をも和のもりてまことにそうるさ

平林 (ん)

(七)さくらちるしばしとゞめてしがなと泣のこゝろもとゝろしをせん
行末までと詠てわが世をも和のもりてまことにそうるさ

(三)薩州藩知事願

曩日傳承り候處、僕見公天下ニ布蒲之萬民ニ是カ爲不一方困苦ヲ蒙り剰外国人ヨリ
種々難題申立、朝廷ヘ対シ奉恐入候儀ニ付、速ニ御改革被為在候趣奉恐縮候、然ル處内實ハ於薩藩
鋳造仕候儀ハ勿論、御座候抑通寶私鋳之禁不容易大法ニ而不可犯ハ必然ニ候處

薩政府之政名分条乱之道之以無可復法之以無可取終ニ干戈之間ニ復古之令日ニ發布
在候程之形體ニ有之其ニ既往之次第申上候得共一圓ニ 皇國恢復之表目上ヨリシテ
蠻國獨立之割據歸伏ニ及ル專行仕候畢竟東西奉命之疲勞莫大之大賊ヲ畫亟シ
途ニ朝ニ方不知所許謂大行細謹ト云ヘ有之寔ニ
地ニ無愧心底候得ハ大權歸 朝信賞必罰討名正事順之時ニ至リ殊ニ前條
一大事御國害ヲ釀シ候付テハ大罪不可逭畏縮仕合御座候間此上ハ明
白情狀ヲ陣述ニ奉仰 天裁外無御座候間今般東越候趣ニ御座候ニ付御評
議被成下 御處置被為在候様奉願候此段申上候以上

八月十四日

鞭官
御役所

鹿兒島藩公用人
田中清之進

此結句日誌
ニ記ス

(四) 上毛高崎藩内騒許可衆紀聞寫

高崎ノ城附五ヶ石都テ四萬石ニ有之是迄全領シ有之然ル
今年悪作ニ中ニ初納出来ノ分ヲ以納出来ノ分ヲ以テ
九月下旬ニ五万石ニ百ノ千ヶ村ノ殘ヶ人合數万ニ人數ヲ割
家毎ニ不法ノ歎奉行羅出追ニ一ノ歎ニ百圓ヲ割
い故然ル、十四ニ百割有之日限ニ百圓ノ歎ヲ
過ルモ沙汰ナキ分又ニ一同押出大ニ騒ニ法害ト係ヲ
詞ヲ一ノ度ニ引番ニ城中人家ヲ知ル
村近所ニ往宗ニ寺有之ニ所ニ陣屋有之ニ
知ル如ク引拂ニ出先向ニ有ル所之人數ヲ出ス
預出ニ縣ニ来ル悪代ニ在ル事ヲ一ニ有之分ニ

和尚名善昌
越後人也云
○東京ヨリ信濃ヘ
ユク路次ニ
云ル四日ハ
処々名所ノ
日光東照宮ニ出ル者安名ヲ訪ヒ在来ノ歩ヲ
ヲ之勝ト云事ニ
○岩鼻（ハナ）ノ驛ヲ
○高傍ヲ信ニ
ノ字ヲ
立ル
是ハ元
冬年
ニテ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

和高名善四
戒後人也
この事ども
記す所なり
云九月八日
此条文の日

一寺前我到ざる前に修行千日参うせしと
一々くその盛んなる初納の後なれ由
横濱トルル相場大に昇りなれ故なるべし
我大政官一両札ろくへ二千五枚に有れ由
掲んとせ参行をもつて聴ざるべからざる
一九月九日長州ノ使者来到福山藩對ヒれ由
一長州ニ州ホこる勢ひ東征ノミヽメる迎仲間
多皆こゝろ服ざるべし一ト先ハ寒試ニ
被うるゝ掲り羽織うせん者をこゝろ
ホノ形行スれカ如く見ゆれ由
一數州ノ于税吏ノ者ニ飯メルニハ皆俵ヲ与ふ
所ノ云ヒ四座猿楽ノ中観世ノ

一寺前我到ざる前に修行千日参うせしと
一々くその盛んなる初納の後なれ由
横濱トルル相場大に昇りなれ故なるべし
我大政官一両札ろくへ二千五枚に有れ由
掲んとせ参行をもつて聴ざるべからざる
一九月九日長州ノ使者来到福山藩對ヒれ由
一長州ニ州ホこる勢ひ東征ノミヽメる迎仲間
多皆こゝろ服ざるべし一ト先ハ寒試ニ
被うるゝ掲り羽織うせん者をこゝろ
ホノ形行スれカ如く見ゆれ由
一數州ノ于税吏ノ者ニ飯メルニハ皆俵ヲ与ふ
所ノ云ヒ四座猿楽ノ中観世ノ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

従て駿州へ移る名由

一高崎道具屋と云ふ戦後の廻り吹き来者ノ話に長岡藩家老河井継之助朝廷へ歎願の為め出発の節、多分の金子を持ち行き、其金を以て人数を募り又兵器を買入れ北越へかゝらん為めなりと云ふ

一前文申す如く八月廿日頃より落列人数追々入来り、廿二日夜に至り一斉に潜寓し、其後多勢そろひて、其筋へ届出ざるもの或ひは重立ちの者ハ

未タ此布告を不見沢国ニ於テ銀量ノ分百万タル三十万ト引換ト云フ
ニアラズ如何ニも勇テ札ノ如ク懲ズシテ又如此コタヘ出ル俗吏ノ
甚シキ停滞スルヿカ

細田細蔵ノ前ニテ子人呂盤ヲ
以テ此ヲ引換ル布告ス

一渡辺東橋東京ヨリ（十一月二日帰着）談薩州ニ大隊出兵ノ事ヲ示ス

一中宮寺月下四日ノ条薩ノ御校輿（実ハ輿）今剣ノ箱ヲ陪従女官モ不能多ク見タリ

一水戸青山小太博士ト云ヘル人ヨリ

話次東湖ノ年参ラ

我田ハ名ヲ下好

千如此ト下誤ノ落漢ニ

一翌ヲ文章ハ林長孺

ハ取肥ノ藩邸ニ於テ

一林氏ヨリ贈ラル前橋学制

一田口二小藩場ヨリ招

一林氏ヨリ塾生数人寓セラル翌後三年ニシテ寒ノ砌ヨリ年ニシテ寒ノ砌ヨリ年ニシテ寒ノ砌ヨリ

従て駿州へ移る名由

一高崎道具屋と云ふ銭後の廻り吹く来者ノ話に長岡藩家老を初メ家中不足帝国ノ朝廷へ御救助願ふ為め一名代として其外数名を以て昨日江戸へ着せし由其筋にては大に驚き種々評議ありしと云

一前文申ス如く八月廿六日大江戸を発足ノ節ハ諸侯人数を出し其外町人百姓等ニ至る迄送り来りしと云

一前文申ス如く伝十日夜江戸へ着せしと雖ども其後多勢ぞろぞろ江戸へ落寓し其後多勢ぞろぞろ江戸へ落寓し其後多勢ぞろぞろ江戸へ落寓し

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

ト云君ハ由此人ノ息葉ハ静岡藩ヲ多倍ノ内ニテ上野迄ハ別条ス乙由

一一日林氏ヲ以テ対話ヲ若ハ昨十二三ノ廿年来稽古ニ参礼ヲ乞ニテ下座ニテ次ノ間ニ一士ア
リテ初メノ内ニテモ後伝人ヲ以テ尚ニ度根掛ケヲ以テ国ニ若ハ自ラ尚天語
修ノ間ヲ不免故寄塾セシメ度トノ事ニテ再々ニ丈ケ懸ケ合ノ末漸ク張ノ知行ヲ以テ
話ヲ受ケ張ノ知行ヲ以テ其ノ地ニ来テ学業致ス乙ニ〇本藩ニテハ昨今数代ハ
講釈ノ為ニ学科一銭モ其ノ生ノ道ヲ塾ヲ以テ又席政ヲ以テノ上田林倒ノ軽多ニ
流行ヲ為ニ其ノ実ヲ以テ我カ江備ノ為ニ第一大綱ヲ以テ故ニ仰ヲ以テ
一南ヲ話ヲ要ス由ヲ以テ封度ハ海ヲ以テ仰ヲ以テ故ヲ由ヲ以テ
一甲州ニ在ル小作ヲ在ル以西ヲ析テ西ヲ以テ
一孔廟ノ釐ヲ以テ経書翻訳ヲ以テ一條ヲ以テ
一会津氏ヲ以テ

四今士ノ西鉄ヲ以テ名ハ皆蛸実ニ地ヲ以テ移ヲ願ヲ以テ
一塩ヲ制ヲ以テ要ス乙ニ武田氏ヲ以テ河ヲ以テ名ヲ以テ
ニ於ソレリ様ニ為ヲ以テ心ヲ以テ平ヲ以テ大ヲ以テ
先ヲ以テ人ヲ以テ田氏ノ国ヲ以テ作ヲ以テ
一会津中ニ塩ヲ以テ二ヶ所ヲ以テ塩ヲ以テ
テ深キヲ以テ底ヲ以テ
濃ヲ以テ濃ヲ以テ
五ツヲ以テ煮テ塩ヲ
ヲ煮ヲ以テ
一薩州ニ於テハ参勤ニ大隊ヲ以テ
徴ス乙ニ於テ一大隊ノ代ヲ以テ

ト云君ハ由此人ノ息稼ハ静岡藩ニ有名ナル由

一一日林氏ヲ訪ヒ対話ス君ハ昨十二三ノ廿年来稽古ニ来リテ和漢ノ大略ヲ学ヒ後仙人ト同ク度根峯ノ穴ニ籠リテ和漢ノ書ヲ読ミ又医ヲ学ヒ其術ヲ以テ人ヲ救ヒ名ヲ売ラス又官ニ仕ヘス自ラ号シテ天臨子ト云ヘリ

一南予諸大夫ノ内ニテ上野迄ノ別荘ヲ設ケ毎年夏秋ノ間ハ必ス此地ニ来リ避暑ス其ノ為ニ道路ヲ修理シ橋梁ヲ架シ又庶政ヲ改革シ従来ノ弊習ヲ一洗シ専ラ民ノ為ニ計ルヲ以テ我カ江湖ノ名士モ亦多ク此地ニ来リ遊ヒ詩歌ヲ賦シ或ハ書ヲ講シ或ハ碁ヲ囲ミ或ハ釣ヲ垂レ或ハ舟ヲ浮ヘ或ハ山ニ登リ或ハ水ニ臨ミ以テ心ヲ慰スルヲ以テ此地ノ繁昌ハ実ニ南予ノ冠タリ

一甲州ノ者在勤ノ侭ニテ屋敷ヲ西ノ京ノ方ニ移シ住ス不ノ行事ト云ヘシ

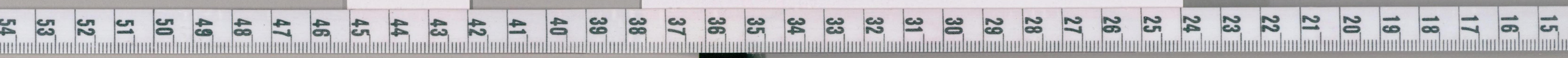
一孔廟ノ庸ヒ経書翻釋ハ一條ノ説ニ依リ其ノ他ハ皆ナ旧ニ依ル

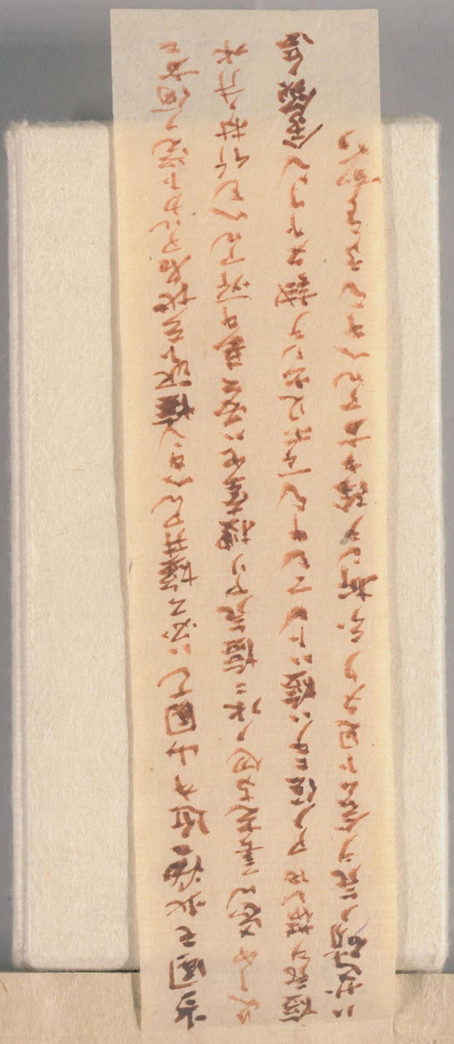
一今津氏ノ家ニ子ヲ名付ケントスレハ先ツ其ノ子ヲ抱キ孔廟ニ詣テ聖人ノ前ニテ名ヲ告ケ而シテ後ニ之ヲ命スルノ例ナリ

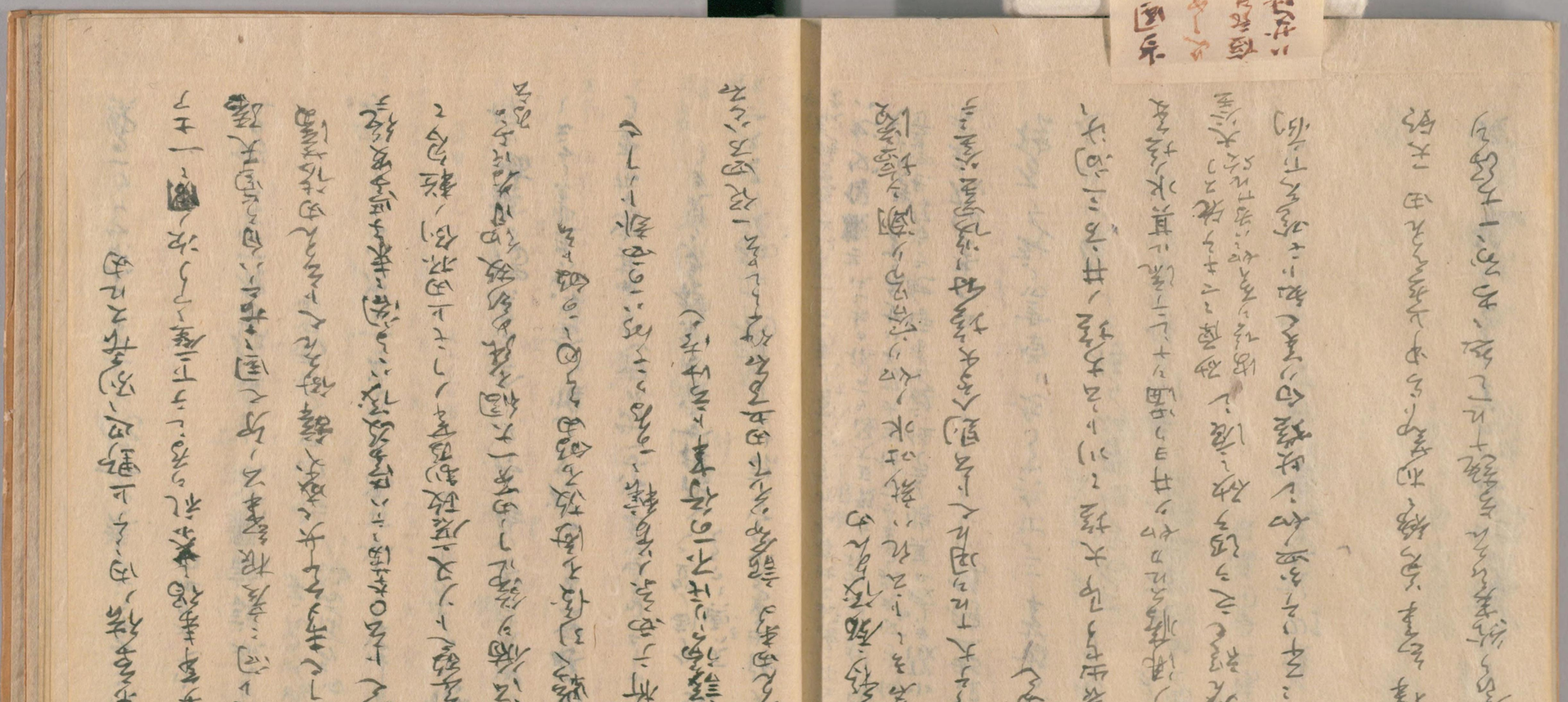
一塩ノ制ハ専ラ武田氏ノ法ニ倣ヒタルモノニテ其ノ法タル甚タ厳ニシテ其ノ弊ヤ又甚シ其ノ法ハ先ツ大塩ノ井ヨリ塩ヲ汲ミ之ヲ流シ其ノ水ノ多少ヲ量リ其ノ塩ノ多少ヲ定ムルナリ其ノ水ノ多キヲ以テ塩ノ多キヲ定ムルニ非ス其ノ塩ノ多キヲ以テ水ノ多キ

国立国会図書館　タイトル『不徹迷語並外録』請求記号 836-3

ガラス使用







○薩藩届書

一銃兵一大隊
一砲隊一吐
　従人数七百四拾九人
　　内
大隊長ヲ戦兵近士ヲ五百七拾五人
　　同断拾六人
　　夫卒百六十人
　　ヲ、軍馬七匹

大隊長　笠原多一郎
教頭　中島健彦
　　次　　池上四郎

幸ヲ生ヲ為ニ縛リ給ヲ白ヲ将ヲ兵ヲ懐ヲ他ヲ逐サレ来ルヲ多ヲ聚ヲ合ヲ頭
鎮撫ヲ内

西丸大手ヘ張紙写

一仏国歩兵演範　重歩兵三冊　軽歩兵全
　右武田氏譯ヲ列　印　校勢参成処ヲ化ニ而ニ分
　右ヲ又今ヲ各張ヲ分ヲ
英国兵制ヲ国ヲ

ヲ尚不安ヲ心ヲ

兵制ノ新変又改正
臨察ノ又ヲ参事任ヲ李蔭賊ヲ
軍ヲ五ヲ馬ヲ名ニ大級

天子一ヲン　慶例慢ヲン　薩州乱志ヲン　徳川ヲ心　各休ヲン
　　校　薩兵勢ヲ
一　校勢参成処ヲ化ニ而ニ分
　右武田氏譯ヲ列　印　校勢参成処ヲ化ニ而ニ分　此校行ノ当ヲ慶例公使参ヲ望ヲ
　右ヲ又今ヲ各張ヲ分ヲ　其他諸兵勢ヲ　条行ヲ待ヲ
英国兵制ヲ国ヲ　ヲ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

率と生ずる為り統ニ白う将ラ丁兵権ラ他ニ移サレ本ラ
多慨ろん内
西丸大手、張付写
天子一ろん 最初慢ろん 後刻乱志ろん 徳川あ心 名体本ろん
一 法国歩兵演範 重歩兵三冊 軽歩兵全、 校旅藩兵学蔵校
右武田氏得ろん処印 校勢本成処ろん 此校行ノ事ニ付ノ条行ラ待テノ落手ヲ延
右ニ又今ろ各張ラ得ろう事ろう 其他得ろう事ろう ノ多シト云
英国兵制ラ国ろ処ろ仏国式ニ改革シニテ出兵セラル、原書ノ就テ万校
ニ尚不安セルヲ以テ歩新得ラシニテ現整得ラセレトノ十ヶ条ヲ上ル本国成勢表
兵制ノ部変改正ろ由ニ 大隊八小隊ヨリ成ル其将ノ任ヲ待処ノ歩兵ノ任半大隊ヲ以テ
監察ノ又少参事任ノ本藩ヨリ之ヲ三大隊ノ兵ヲ可出旨ヲ
命ラ受ケ為ニ大隊ニ千四百五十四人ニ不過ニ此員ニ
○薩藩届書
一銃兵一大隊
一砲隊一座
総人数七百四拾九人
内
大隊長ろ戦兵近士ろ五百七拾五人
軍原拾ろ人
夫卒百六十人
ろ、軍馬七匹
大隊長 笠原一平
教頭 中島徳 義久 池上四郎

…り兵権を他に移さんとするの姿勢頗る…

…後別に乱志なく徳川氏に帰順の心あるは疑ふ…

…兵を募り…

…此移行の際二分…

…其他諸般の条件を得ざる…

…ノタレト云

…兵を募り…

…整備セラレタリト云ふ…

…小隊より成り其将を任命を待ち…

…何字以下大矢事が可任半大隊長八少矢事又は大矢事…

…隊の兵を可出旨…

…隊の編制ナレ…

…ニ不通ニ此召モ彼ノ…

…兵五百七拾五人

…

…

…

小隊長 山口孝右衛門
堀 野治郎
小隊長 小路高吉
半隊長 相良善左衛門
谷川治郎右衛門
吉井 叶
伺役
吉馬吉造
分隊長 大迫新八郎
村岡源吾
長嶋尚孝

坂元鄭次
野田武輔 児玉半大郎
善福宗之助 あ田茂輔
仲東蒙吉
相良善右衛門 山口十蔵
阿多仕四郎 松永清之亟
知識源吾

吉井叶 野辺地慎太郎
伺役
吉馬吉造
分隊長 大迫新八郎
村岡源吾
長嶋尚孝

分隊長 村田三助 砲隊長
大迫半武輔 半隊長 中江左吉
西郷孝右衛門 秋永佐一郎

右之為国家之御精兵可差出上旨被
仰下畢依之信示所之差惣姓名等右之通
御座候以上

一銃兵一大隊
一砲隊一座

右之為御警衛精兵之差出候通
畢竟如斯文一大隊迄之事故非常
之相図の時右之通務備兵いたし知事通
申候

名海路ヶ到着之節ハ名置

右之通可奉伺出候間此段申上候以上

十月九日

兵部省

御役所

鹿児島第四大区
区長
田中清通

一 桜小隊ヲ一大隊トシ隊長二人 両名ニテ左右半大隊トシ隊長二人
今般改正 一小隊各六十人 隊長八人 一方ヲ両名ニテ半
隊トシ隊長八人 為差出ス 為差出ス 教授ノ職ハ仮ヲ等字 大砲隊長ハ砲兵ノ同等ニシテ其権任歩隊ト
同ク二少隊ノ兵ヲ以テ砲六門ヲ一大隊トシ隊長ハ砲兵ノ同等ニシテ教師ノ成規練法ハ総テ営内ノ紀律ニ
従フヘシ

七月廿日

此兵隊モ多ノ後太政官ノ名札ヲ使ヲ以テ諸ノ私学ヲ勧メ私塾ヲ
開キ候ヲ多ク沙汰ヲ聞候人モ多ヲ使ニテ多ク
召ムヲヲ不得止ヲ以テ西郷ヲ屋ニテハ不通ニ其他ノ遣ハ二ヲ通ヒ
ヲ依テ
一 両金銀並ニ多ヲ物ヲ銭ニテ多ヲ引換ノ布令出テ是迄莫大ニテ渇ヲ通用ノ二ヲ

雲多紛れ処ノ物変古ニほろほろ化ニ行ケ与云ふ
若し従学ぶ百ノ内ハ本社ノ雲行スベし夫ハ今
之ト云多者ハ先ノ子行ノ八ノ銭銭、又年秋一ノ年ノ侍り者し子ノ俗ノ物ニれ字〇ノ家
地那母、雲行ノ引ノ与ノ上ニ子ノ徒ノ収納ヲ故ノ子ノ甲供代ノ収納ノ侍ノ引ニ子ト云
来ノ子其ノ初代ノ上ニ多ノ通ニ子ノ上ニ子ノ処ノ報ノ
子ノ子ノ子ノ初代ノ年十ケ子ノ納物ハ例ノ如ノ子ノ納ノ引ノ子ノ
ル時ノ我ノ子ノ引ノ子ノ上ニ例ノ如ノ子ノ納ノ引ノ子ノ
ナリ子ノ新ノ当ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子ノ

一 言語哦訴ノ子従来日常ニ格式引ノ子ノ子ノ子ノ
今ノ子ハ学問改革ノ子ノ無論、多数ノ子ノ子ノ子ノ子ノ
格式ノ上ニ例ノ如ノ子ノ納ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子ノ

一 大村兵部兵学校有之御用トシテ上京ノ処彼士族ノ
暴威ノ性ヲ異ニシテ故其ノ実表ニ我ハ吾兵制ノ建ノ必ス二西洋ニ従ヘルヲ大村ノ方
今突ノ佛其兵制ヲ採テ定サレハ彼ノ善ニ成ノ武ノ立ノ子ノ能ノ其ハ堅ノ洋法ノ善ヲ
ト欲ノ是ヲ云ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子ノ子

一 [illegible] 役一 [illegible] 百七十万石、三人口七千万、[illegible]

一 駿州ニテ権現ノ実相ヲ悟リ成就セシ徳川氏ノ孫ノ大禅ナルヘキ由北条家ヨリ小原ノ西寅ノ赤斎録ニモアリ新撰ニモ其荘蔵ルヤ

一 西住人某川口ト共ニ行ク私ノ云ヒ送ラレル長官当東京ニ在シ日ハ吉野引移シノ成ヤ未タ不知ハ月中ニ一所ナリ

一 加州ニテ暗殺ニ遭ヒル重臣ハ五万石本多従五位ノ通於ノ勲改ニテ郡県役務辺止ノ表ホシ有ル人叶ヒ得ヒ[illegible]ノ事ニ恐ニ元大井清ヲ特ニ安安堂情テ安ニ於ケル藩士ホ俄ニ紛事ヲ家福ノ自己ノ俸ヲ減損ヒル[illegible]悔悟ヒテ孤忠ノ神佐ヲ行ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]

一 十三年三月豊高館ヲ毀ツ初メ館ノ東南ニ当リ一小丘アリ其ノ頂ニ方一間ノ祠アリ稲荷ヲ祭ル祠ノ前ニ方二間ノ拝殿アリ拝殿ノ前ニ方一間ノ鳥居アリ祠ノ後ニ方一間ノ奥殿アリ奥殿ノ後ニ方一間ノ石室アリ石室ノ中ニ石櫃アリ櫃ノ中ニ古鏡アリ鏡ノ径一尺二寸余アリ鏡ノ裏ニ文字アリ其ノ文字ハ判然トセス鏡ノ表ニ獅子ノ像アリ獅子ノ像ノ周囲ニ十二ノ乳アリ乳ノ外ニ十二ノ文字アリ其ノ文字ハ判然トセス

一 小野春風氏ノ話ニ曰ク今ヨリ凡ソ二十年前ノ事ナリ余カ父ノ命ヲ奉シテ出羽ノ国ニ往キ雄勝郡ニ至リ横堀村ニ宿シ翌日ヲ以テ秋田ニ赴カントス横堀村ヨリ秋田ニ至ルニハ雄物川ヲ渡ラサルヘカラス雄物川ハ横堀村ヨリ凡ソ一里ノ距離ニアリ余カ横堀ニ宿シタル夜ハ雄物川ノ水増シテ渡ルヘカラス余カ横堀ニ滞在スルコト凡ソ三日ニシテ雄物川ノ水減シ始メテ渡ルヘキヲ得タリ余カ横堀ニ滞在スルノ間ニ於テ聞ク所ニ拠レハ雄物川ノ水増シテ渡ルヘカラサルトキハ旅客ノ横堀ニ滞在スルコト凡ソ三日ニ及フヲ常トスト云フ

一 大小巡察常ニ従ヒ巡検ニ赴クヲ例トス然ルニ今年ハ二月ノ末ニ至ルモ未タ巡検ニ赴カス人或ハ其ノ故ヲ問フ先頃上野ニ在リシ時ハ毎ニ賀茂ニ行幸アリシヲ以テ巡検ヲ延ヘタリト云フ今ヤ賀茂ノ行幸モ既ニ畢リシヲ以テ巡検ニ赴クヘシト云フ

一 長州処士吉田松陰ハ嘉永七年ノ春ヨリ東北ノ諸藩ヲ歴遊シ其ノ秋ニ至リ江戸ニ帰リ来リシカ幕府ハ松陰カ諸藩ヲ歴遊シタルヲ以テ松陰ヲ目シテ諸藩ノ事情ニ通スル者ト為シ松陰ヲ捕ヘテ之ヲ獄ニ繋ケリ松陰ノ獄ニ繋カルヽヤ其ノ門人ノ之ヲ救ハントスル者アリ其ノ門人ノ之ヲ救ハントスルヤ幕府ハ其ノ門人ノ之ヲ救ハントスルヲ以テ松陰ノ罪ヲ重カラシメントスルノ意アリト云フ

一 安政元年ノ冬ヨリ翌二年ノ春ニ至ル迄ノ間ニ於テ江戸ニ来リシ露国ノ軍艦ハ凡ソ四隻アリ其ノ四隻ノ軍艦ハ皆ナ江戸ヲ去リテ下田ニ赴キ下田ニ於テ幕府ノ官吏ト応接ス幕府ノ官吏ト応接スルヤ露国ノ軍艦ハ皆ナ江戸ヲ去リテ長州処士吉田松陰ノ既ニ諸藩ヲ歴遊シ了リテ江戸ニ帰リ来リシヲ以テ松陰ヲ捕ヘテ之ヲ獄ニ繋ケリ松陰ノ獄ニ繋カルヽヤ其ノ門人ノ之ヲ救ハントスル者アリ其ノ門人ノ之ヲ救ハントスルヤ幕府ハ其ノ門人ノ之ヲ救ハントスルヲ以テ松陰ノ罪ヲ重カラシメントスルノ意アリト云フ

一 多賀連盛嘉ヨリ国ヲ東西ニ分ツ嘉保ニ至リ之ヲ分チテ二ト為ス嘉保ヨリ後ハ東西ニ分ツヲ例トス

一 小野春風氏ノ話ニ曰ク今ヨリ凡ソ二十年前ノ事ナリ余カ父ノ命ヲ奉シテ出羽ノ国ニ往キ雄勝郡ニ至リ横堀村ニ宿シ翌日ヲ以テ秋田ニ赴カントス横堀村ヨリ秋田ニ至ルニハ雄物川ヲ渡ラサルヘカラス雄物川ハ横堀村ヨリ凡ソ一里ノ距離ニアリ余カ横堀ニ宿シタル夜ハ雄物川ノ水増シテ渡ルヘカラス余カ横堀ニ滞在スルコト凡ソ三日ニシテ雄物川ノ水減シ始メテ渡ルヘキヲ得タリ余カ横堀ニ滞在スルノ間ニ於テ聞ク所ニ拠レハ雄物川ノ水増シテ渡ルヘカラサルトキハ旅客ノ横堀ニ滞在スルコト凡ソ三日ニ及フヲ常トスト云フ

一 大小巡察常ニ従ヒ巡検ニ赴クヲ例トス然ルニ今年ハ二月ノ末ニ至ルモ未タ巡検ニ赴カス人或ハ其ノ故ヲ問フ先頃上野ニ在リシ時ハ毎ニ賀茂ニ行幸アリシヲ以テ巡検ヲ延ヘタリト云フ今ヤ賀茂ノ行幸モ既ニ畢リシヲ以テ巡検ニ赴クヘシト云フ

一 多賀連盛嘉ヨリ国ヲ東西ニ分ツ嘉保ニ至リ之ヲ分チテ二ト為ス嘉保ヨリ後ハ東西ニ分ツヲ例トス

一 安政元年ノ冬ヨリ翌二年ノ春ニ至ル迄ノ間ニ於テ江戸ニ来リシ露国ノ軍艦ハ凡ソ四隻アリ其ノ四隻ノ軍艦ハ皆ナ江戸ヲ去リテ下田ニ赴キ下田ニ於テ幕府ノ官吏ト応接ス幕府ノ官吏ト応接スルヤ露国ノ軍艦ハ皆ナ江戸ヲ去リテ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一 小幸田伝吾極窮ノ体ニテ来リ借用ヲ乞フ依テ天保銭弐貫文ヲ貸シ遣ス

一 金弐百三拾弐両弐分ト銭弐貫文 引上ゲ

一 金弐百三拾弐両ト銭弐貫文 二八ソバ

一 十四日陽田中ノ新番組 御番所ヨリ書籍ヲ

一 十四日ヨリ九月頃迄ニ帰国ス

一 水北大宮辺ニテ年若キ娘ヲ連レ行ク

一 岩附入口ノ茅葺ノ宿ニ大小七本ヲ預ケ

一 十四日止納村ヨリ金弐朱ヲ借ル

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

十五日朝松屋ニ細工ノ作多ク兼
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十廿日朝祖母細口ノ作ノ急ニ薬ノ飯ヲ拵ヘ
ケレハ為ニ休ノ用ニ二万ニ近キ人ノ集リ
リト云ヒ水ニ係リ
ニ
日ノ
一
一
銀ノ代用双方
ノ精錬ヲ経ヘシニ銅之含ミ
カ多ク損ハ為リ儲ケ多ク銀金ノ正位不見出シ
ル故ニ
西ノ黄金ノ
国中ノ金
ト
奈何ト云ヒ
ヲ
ヲ
ヲ

ドルこ迄ハ其儘ニ差置ケハ金銀貨幣ノ減少ヲ招ク恐レアルヲ以テ大久保参議ノ発言ニ依リ

一 鍋島大納言深更ニハ奇ヲ行ルヽ方ニテ去年ノ冬ノ頃ヨリ其後

士迄仏蘭西精好ノ袴ヲ着セシメ今年諭官条例ヲ以テ

精好袴縮緬羽織ヲ

用ヒ新ニ袴ヲ我ニ

一 東京ニテ会議ノ節（其筋ニ関係ヲ有ス）或ル壮士ヲ撰テ実況ヲ探ラシムル事ヲ（探ラセ有ス）

テルヲ有ル者ハ其後ヒシヒシト避ケ都テ不在ニシテ所在ヲ知ラス

悪疫暗唖症

ニ罹ル云々

ルハ固ヨリ営業ナレ

当勤ノ所多クシテ唯ヲ政ニ従ヒ

一 太政官ノ下諭官有ニ定メ不動ノ規則ヲ設ケ新ニ任用ヲ得ル者アラン ニ其先

官僚数千石日ナルニ其向上ノ途ヲ下ニ行ハレハ其奔官ノ例トナリ格トナリテ又

例格ヲ知ル先官ニ数多ノ新進ノ者ヲ推ス事ヲ得ス勢ヒ是ヲ以テ説ヲ迴ラシ他ノ

要路ニ実権ヲ収攬シ修ヒ先輩ヲ傾陥スルニ至ルハ

又其弊ヲ救ハント欲シ自ラ専ニスルニ至ルハ

ヒ断然ト不取ヒカ胸臆ヲ行ヒ各国ノ又移転出ヲ再ヒ排斥ヲ請ヒ第同ノ故

ヲ以テ多数ノ変命今又変更一年ヲ不出ヲ通知ノ如ク猥ニ

一 賤賢ノ出ルハ容易ニノ撰挙ニ非ス云々ノ説ヲ唱ヘ我川ノ名ヲ指テ

ウス今李陵ノ餘喘ヲ偸ミ一人撰天下ヲ云々ノ（李陵ハ漢ノ将軍ニシテ匈奴ニ降リ匈奴ノ人ヲ娶ル）

侯伴トナリ匈奴ニ落ル事ヲ

モ同ト思ヒ別ニ兵制学ヲ設ケ学了ノ者ニ

一 兵部省ヲ始メ三官衙ニ於テハ不日ニ

（ノ已ニ出ル後又其人ノ功ヲ忘レ仍ヲ尚尋ヲ要ヲ云ヽ差ヲ改ヲ更ニ有ノ出ル）

ドルと称ス其書ハ今銀貨幣ノ準ニ君ヲ特別スルヲ知ル大ナル拠ト云ヘ
一 鍋島大納言家ニハ奇ヲ行ルヽ方ニテ去ル年世間専ラ洋服ヲ著ル頃ハ其従士
士迄仏蘭西精仔ノ袴ヲ著セシメ今ヤ諸官衙ノ朝往来スル者多クハ其従士大方
精好袴縞御召羽織ホンノ偶タル時ハ衆興ニ従士奴僕ニ至ル迄皆半ヒロ
服ホノ袴ヲ著ル我邦務ヲ改ムルニ当リ如此ノ類ハ当ニ厳禁スヘキ事ナリ
一 東京ニテ会ヲ結ヒ社（其郷国ニ於テ或ハ張ヲ壮ニ張ヲ設ケ遠ニ在ル者ハ
ヲ以テ者ハ後セラルヽヲ避ケ都ニ在ル者ハ互ニ相会シ）ヲ結ヒ其事ヲ講シ
地ヲ変疫暗唖聾残ノ者ヲ一ニ救ヒ貧院ニ入ル者二万四千人ニ下ラス
ルヽヲ以テ英仏蘭米病院参観ノ際実ニ四万ノ院療人ノ教校ホ政事ノ行届タ
ルハ固ヨリ挙ケテ数フヘカラス仁政ニ於テ大道上ヨリ行ハレ仁政ニ於テ大道
ヨリ行ハルヽハ其国ノ富ヲ増スニ外ナラス 全上
為ニ動ク所多クシテ唯志ヲ政ニ働ヒスルヲ以テ其ノ
一 太政官ニ下諸官府一ニ定不動ノ規則アルヲ以テ故ニ新ニ仕用ヲ得ル者ト雖モ其
官僅数千百日ナルニ其向上ニ昇ヲ下ニ行ヲ見ル者ハ多クハ不得ノ輩ト見ラレ
例格ヲ知ル先官ニ対シ新進者ノ為ニ屈ヲ強ヒラレ
要路ニ志ヲ得ル者ハ往々先輩ヲ傾陥ヲ図ルニ至ルトカ
又要路ニ在ル者ハ已カ胸臆ヲ行ヒ難キヲ図リ文移延出ヲ再ヒ排斥ヲ講ス等同ク故
ニ政令ノ変改一年ニ不ヲ過ス紀綱ノ振ハサル所以ナリ
一 幾賢ノ出ルハ容易ニノ撰挙ニ非ス云ヘハ古ヘヨリ之ヲ説ケリ我川ノ名ヲ指ヲ徴シタルニ
ラスヘキ李ノ陳ノ鉢希ヲ以テ指ヲ一人推天下ノ俊傑トナリシ如キ（此ハ兵ヲ有ニ出ル武事上ニ云ヘルニアラス
東京警保ノ上ニ我川ヲ以テ之ニ充ルヲ云ヘリ）
一 兵部省ヲ始メ二官神祇不ヲ除ク各官ニ学校ヲ置キ学ヲ勧ムルヲ以テ
（この已下ノ名後又其人ノ功ヲ長ヤ行ヒ尚尋ヘ著ヘシヲ以テ故ニ再ヒ出タル）

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

ヲ好リノ徒天至ニ相稱ヘル人物ニ非ス又他ヨリ客スレハ當然ヲ見テ有ノ耐テルヘシ云々

唯兵ヲ有スルヲ以テ弱正堂ノ如キニ落由ノ一ニ當リ之得ン看ヲ四ニ言フ能

兵設者ニヲ北面シ遠ノ中十ノ郭ヲ設ケヲ以テ

シメ平和ヲセトノコト見ヘタリ孫杜陵士ノ云ヘル

松ニ在ルハ老幼婦女ヲ五千人ヲ保ヲ俱ニ移住セシメントスルニ

人ヲ能ク整器服ヲ給稚牛種ヲ活計ヲ与ヘ一箇ヲ大業ノ遂ノ術ヲ了

者官吏ノ力ニ及ヒ將他ノ平和移住ノ此ニ向ヒヲ二ヲ官

明ニシ家ヲ之中ニ數千万ヲ一ノ字ヲ不ヲ

一 增上寺ヲ領二万石ヲ給ヒ二ノ石ヲ設ケ三ノ石ヲ給ヒ

ヲ二ノ稱ヲ向ヒ移ヒ二ノ石ヲ給ヒ多人ヲ供ヒ後ヲ人ヲ計ヒ

ヒ二ノ外ヒ近ヒ同ヲ等ヲ多ヲ佐ヲ共ヒ我ヒ故郷ヒ送ヲ佐ヲ

一 郡実地ヲ家ヒ宣蒲一陸ヒ歌ヒ石狩ヒ二陸ヒ之ヒ三陸ヒ云ヒ石狩川西岸人衆

ヒ連ヲ水上数ヒ里ヒ相地ヒ約ヒ等ヒ多ヒ

而後ヒ衛ノ仰ノ如ク

石頂ヲ等ヒ待古

拓ヒ拓多代ヒ後ヒ

代仰ノ人ノ為ヲ

常ヲ不法書ヒ二ノ実ヒ俗ヲ知ヒ無ヒ天下ヲ一美ヒ之ヒ者ヒ

シヒリ島ヒ木ヒ不ヒ立草ヒ不ヒ生ヒ祖ノ如ヒ

多ヒ列ヒ年ヒ無ヒ鎖ヒ為ヒ先ヒ仰ノ為ヒ四ヒ等ヒ

一 四年間ヒ之仰ヒ郡ヒ仰ノ如ヒ約ヒ名ヒ国ヒ数ヒ

如ヒ無ヒ故ヒ仰ノ情ヒ約ヒ之ヒ故ヒ移ヒ不ヒ懐ヒ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

テ好リノ花天至ニ相稱ヲ人物ニ富ホクシテ他ヨリ客ス
ル者多ク新天地ヲ作兵ヲ有ス滿ト雖ニ弱亜墨ノ如キニ落ル
ニ非ス都テ人ヲ出シ易ク入ヲ制シ易キ者ヲ以テ言フ
一
兵部省ヨリ北海道ノ中十ケ郡ヲシテ屯田ノ設ニ方テ
松ニ在ルノ老幼婦女子ヲ五千人ヲ得テ倶ニ移住セシメントスル
人ヲ能ク慰撫シ服セシメ種牛種ヲ活計ヲ与ヘ開墾ノ大業ヲ一
日ノ遅ノ術無シ
右官吏ノ力ニ及ヒ難キ所ハ他ノ富裕ノ移住ヲ
明示シ家毛ノ中ニ數千万ヲ少ニノ子ヲ出シ
一
増上寺ニ納ル所ノ石ヲ破実ニ此石ヲ以テ取除ケ
ヲ海ニ投シ而シテ後ニ其地ヲ開墾セハ多人ヲ容ル
ニ足ル歟
右ノ如キ事ハ日ニ移ルノ勢ニ乗シ
ニ非ル歟
一
那美地東岸ニ宮菊一落西歌ニ石狩
ニ注ク水上数里ニ石ニ堰ヲ設ケ舟ヲ通ス
而シテ岸ノ石ヲ取リ得ル多利ニ
石垣ヲ築ク時ハ不見ニ永禄天正頃ノ城郭ノ如シ
抑モ移民ヲ植ルニ行ルヘキノ地ヲ定ル
代ノ人ノ為ニモ
苟モ不法ヲ為ス者ハ死ヲ以テ天下ニ
シテ島ハ木モ不生草モ不生ノ地ニ
多利ヲ無ク鉄ヲ以テ
一
四年間ニ他ノ人ヲ四拾万人移住ス
如ク敢テ他ノ情ヲ紊ル故ニ不懼ノミナラス

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

恐入候共者もちろん一と筆如斯ニ候ニは倶ニ跡伏シタリて来タ君臣ノ義後ろ
ニ通和有之ベからず若 朝廷より被遣候君子命セラレ 数君子 朝命より遣ス
ヲ不二ノ通交トノ二元ノまゝ賜ハ一二言ヲ不申所存二の候と恐り其実ニ
実務ニ通ヨリ直ニ二の移トノコニ一変ニ実務ニ通ヨリ直ニ二の移トノコニ一変ニ実務ニ通ヨリ直ニ二の移トノコニ一変ニ

収之移ん者ちうん（と無処君ら俱に陪伏セタリて来タ君臣ノ義復ん
玄通紅着ベカラス若 函丈まう故君三命セラレ数君まう 朝名まう趨参ト
テ不二の通文トノ一元ノまう賜うハ一言うて申ス所ノ二の陛と称ス甘参ト
望務局まう直ニ此ノ移トリうミテ一室ノ参事後又院ノ列セやらん、同ニ改ニ与ス順フ
ヲ不耳廃ト相ロ不得共由ヲ以テ従位改ノ
特勲重ク流深ニハつうみんノ如モ任ニ無ク者ノ処置ヲ
一 東京府寺 邸地二修ノ頃トシテ新ニつくラレタル
元田家ノ寺ニ三ノ寺ヲ併セてう其ノ係ハ
項止寺ヨリ白ラ勢ニうリて成功ヲ近
一 旧冬ハ長ク新ニ移ラ神宮ノ
冬時如二月就后ニ十谷辺 横雲ニ入仰ノ
一

○ 三月十六日新任除

議事

理事

学監事務 兼

横田機應 勅任並 表司人
域澤基馬 表司人
楠口旅ラ 勅奏ノ時
新七 日付

近藤晋 日付
千葉良新 使役
ラ郎右垂吾 叙ス
友部章太郎 叙ス

久保三郎 正六位ニ叙ス
加藤直衛 重監事務 兼
楠口旅ラ 学業優ニ付賞藏
本田一中 勅任並
藤田武夫 勅任並

宮下有常 表司人
望月ミ采 叙ス
竹内ラ章 叙ス

河原理 兼
石川稔 学務ノ任

落合孝ラ 破浦 正六位ニ叙ス
神谷ラ藏 剣術
少野ラ雪ラ 日ノ
中沢正藏 正六位ニ叙ス

竹村ラ吉 馬術ノ為兼司馬
竹村里義
中村哲ラ

少崎要吾 剣術 二等教授
相沢就太ラ 正六位ニ叙ス
宮ラ元ラ 正六位ニ叙ス

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

東條清吾　竹田八十男

日日新聞　小野寺勇男

五人

以上信太郎一党ヲ斬シ此外二名ノ水浦方馬丁ヲ斬ツタト云フ又ト云ヒ後刻ニ用度掛ノ名ハ何ト云フ生シ何ト云フ

一　土佐人

○十月廿一日

一　高橋市兵衛　増次郎子

一　人ヲ呪詛ハ　中村吉平

一　小出良助　小泉清吉

一　家扶就任

一　官ノ事ハ

一　鈴木重胤子　多田頼三郎

一　杉　介抱　花の間ノ事ヲ

一　多分情夫

九　若松縣權少屬海沼淀子書東副書役　已ニ十一月三日条合十七日達但副書ハ翌日書ヲ見ヨ

知縣事林轍之亟及奥州福嶋縣知事ヲ仕仰付近頃出立ニ相成ル若松縣知事ハ四條殿被仰付如九月十七日頃東京ヘ出立只今ニ而ハ多ク民政頃ヨリ萬端つまり城下ハ煙ヲ揚如ク誠ニ雑沓候者多ク而已ナラス○仙米寺外仏寺多ク等於四文○あるヲ試ニ五万代金試ニ○墨田兵隊八拾人程多ク關門五ヶ所ヲ固立右ノ兵隊其外新発田二本松三春米澤其疲ニ驚ク程ノ事務兵隊ヲ替ル大村人數モ多ク而已ナラス諸藩ヨリ加勢ニ関山ノ破リ三宮耕慶及ヒ東京ヘ登ル○四条殿東京ヘ御登ノ節ハ下拙ヲ思ヒ給フ而已ナラス君様ヨリ御出ニ相成リ我カ汁心有仕合ノ縣ノ規定ヲ其ヲ不極ニ々々其ヲ養生ヲ○ヲ善請多ク故下拙ヲ迫ヲ幡ヲ引越ヲ不及申夜ヲ以四ツ頃迄ニ調付候ニ當惑ノ筆ニ

後長屋ヲ株三拾圓ヲ以長屋附板屋根弐軒八等官

若松縣權少屬海沼宦ヲ書東副書狀 已上十一月三日差立 但副書ハ翌日書ヲ以テ見ス

知縣事林轍ヲ免ジ奥州福嶋縣知事ニ仕フ仰付ノ旨ヲ以テ 仰付ノ如ク九月十七日頃東京ヲ出立ス今ニ於テ仰ノ如ク多ク民政ノ事務ヲ以テ萬端つまり城下杯ハ煙ヲ揚ル如ク雜沓ス依テ雜沓ノ者多クハ當縣ニ於テ四文〇あまり銭ヲ五ツ代ヲ以テ銭ヲ〇黒羽兵隊八拾人程ヲ以テ關門五ヶ所ヲ守衛ス尤モ極テ嚴重ニ立右ノ兵隊其外新發田二本松三春米澤其外ヨリ出張ノ兵隊ヲ替ル〳〵大村人數モ多ク詰居候間山ノ如ク三宮耕慶及ビ東京ヘ登ル〇四条殿東京ヘ御登ノ節ハ下拙ヲ召ス事ニ候間君樣ヲ初メ我カ社中ノ者付添ノ縣ノ規定ヲ守リ不極ニ〳〵其四ヶ所ヲ〇ヲ善請多ク故下拙ヲ〳〵ヲ善ク引載ニ不及申候ヘ共四ツ頃迄ハ〳〵調付候ニ當惑ス

後長屋ヲ棟長拾ヲ間四ツ半ニ下屋附板屋根ニ致ス間數九拾八等官

東條清見

望月幸治
村文藏
佐多義通

竹田八十男
砲術二等教授 中俣一子
佐多三次
せんぼんぢ
ちの母久人

○十月廿一日

高橋市兵衛
增淵文子
人を以テ
小出良助
中村方助
家扶新宮通
宮入重吉

鈴木重助
杉 介松
多田通三
花の間ニ入ル
多治部新
ちの母歌子

長屋拾棟今日迫調役長屋五棟立初ル相成リ候ハ當月中ニハ六ツ可申事、
ツヾテ其外ニ局ゟ棟外長屋出来ノ間一日ニ休日抔ハ不取ニ甲賀町通四ノ町ヘ
大門立ニ杖弐尺四寸角ニ而出来役宅局外廻リ裏ノ塀間數九百九拾間計
ハ〆弐千弐百五拾五両ニ而渡ニ候ハヽ私持分ニ而山ゟ運送材但賃銭拂
○大平山ゟ送ル材木ハ取○激澤村ゟ送ル材木○方野口村ゟ送ル材木
取ノ其外ハ藏破損材渡ニ方日々多分ニ有之不足ノ間ハ後ニ取ニ付今ニ私ハ三
百両位ハ支配受任置拂仕其上本棟杣人ニ不足一日ニ百人位ヲ拂ヒ申一條金
子ニ而相渡候ニ付役ゟ大切ニ相勤ル者旦那様ノ名ヲ下ニ出ル様ニ申訳ヲ故
事ニ候ハヽ一段ノ心得ニ而ハ有之間敷ト存候ニ付ハヽ
○下ノ字ニ五ノ字ノ間ニ屋利兵衛方ニ引致居候ニ付ハヽ
中ノ野屋ニ而ハ保候ニ付如斯ニ候ニ付ハヽ

相勤ル毎日局ニ出役夜分ハ宅ニ而御ヲ請ニ参リ候ニ付ハヽ
當節ハ吉ハ日野山寺ヤヽ
○私同役ニ付松ヲ千本ニ而ハ
調方人夫毎日調ヒ兼候ニ付ハヽ○明年ニ罷局ニ付
宅ニ棟出来候ニ付ハヽ
四月頃ニハ帰リ心得ニ候ニ付ハヽ○只今ニ而ハ
ゟ不取ニ本松ニ而ハ
子時節ニ而ハ當年ハ猪苗代赤澤邊ニ
ゟ作故日々科人計ニ而
ゟ致新宅屋敷四方ニ棟出来ニ而
三日町角ニ而ハ○塔寺屋九伸ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

御代駅
名ご

翠鏡九年子杖ニ倚テ右ヲ眺レバ外之青芙ヲ不相替翠在落ち
ら旦那様ハ出シ石津屋太吉左申扱四皆ニ心待居ル様子ニ有之ト

○北表ハ雪待ト至ラバ必敗ヲ云ヲ杉来ニ当表ニ行ハレシ事ニ非ト
○世表ト雖、寒ノ多ノ雪ハ十月廿日山ハ、ら雪降リ今ニ十一日朝杯ハ山ハ多ノ雪ハ
ヲ先日廿ハ御代杯ハ雪ニ寺位降積ニ○先遣来ニ申上ハ八月中月給拾三
両ト先日廿ハ御代杯ハ雪ニ寺位降積ニ○先遣来ニ申上ハ八月中月給拾三
両ト五両ト永五十文ニ而下九月中ハ三拾両ト詰ニ而永八両文ら被ニ有難ク存ハ若
旦那様之御ニ而ハ被ニ而ハ御勤ノ儀ニ而ハ其外ニ人ニ而ハ勤ノ筆来
ハ不参申ら奇気極ニ勤若御入用ノ分出カシ明後ニ被ニ而ハ参ニ而ハ
ク月ニ而ハ賄料ハ一日ニ付ニ九百文ニ矢当料ニ而ハ当番代一日ニ四百文ニ而入用
多ノ而ニ而ハ落ニ而ハ賄ニ而ハ被ニ而ハ○大夢ニ而ハ
存ハ月ニ而ハ上納事ニ而ハ○大夢ニ而ハ
ハ不参ニ而ハ○大夢ニ而ハ

翠ニ而ハ頃ニ而ハ年被ニ而ハ早々ニ而ハ国元ニ而ハ飯米ニ而ハ仕其節ニ而ハ乳ニ而ハ申上候ニ而ハ
ニ而ハ拾両位ハ不持候ニ而ハ支ニ而ハ両ニ而ハ節ニ而ハ用ニ而ハ参ニ而ハ
ニ而ハ而ニ而ハ而ニ而ハ而ニ而ハ而ニ而ハ而ニ而ハ而ニ而ハ而ニ而ハ而ニ而ハ

一筋ニ不景気故四人ニ而ハ婦女ニ而ハ貯ニ而ハ不参類ニ而ハ出ニ而ハ南部ニ而ハ
ハ品ニ而ハ五ニ而ハ位ニ而ハ買入ニ而ハ翠被ハ○十月十三日鉄屋ニ而ハ参ニ而ハ節ニ而ハ人ニ而ハ女ニ而ハ参ニ而ハ
物ニ而ハ呉ハ様申付経ニ而ハ十九日ニ而ハ銘屋ニ而ハ申ニ而ハ此ニ而ハ物ニ而ハ拾ニ而ハ両ニ而ハ位ニ而ハ
高ニ而ハ付ニ而ハ品物ハ当ニ而ハ紅ニ而ハ切ニ而ハ入ニ而ハ紅ニ而ハ織ニ而ハ那
内ニ而ハ縁ニ而ハ入ニ而ハ歌ニ而ハ詰ニ而ハ皆ニ而ハ紅ニ而ハ都合五ニ而ハ十三ニ而ハ故
ニ而ハ切ニ而ハ切ニ而ハ類多ニ而ハ山ニ而ハ望ニ而ハ品ニ而ハ下ニ而ハ織ニ而ハ
の表ニ而ハ入ニ而ハ訪ニ而ハ位ニ而ハ買入翠被ニ而ハ両ニ而ハ刀服ニ而ハ
ニ而ハ訪ニ而ハ経ニ而ハ下直ニ而ハ翠被ニ而ハ参ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

三ら玲之又日科之人訓ノ八百訓千四人口御誡ヲ緊ら弥ノ多多ノ千ノ〇科人
ろん之ろ〳〵ノ之ろ〳〵ノ之ろ〳〵ノ

矢嶋三八ノ父儀右エ門明七巳五月初ロ白川口ヨリ白坂ヘ下ル我家
ニテ殺死ス敵父丹蔵 去ル午閏新ノ為ニ出兵ノ為ニテアラン
ト云ヘリ 三八ハ当年廿二ト云

一 右手疵ヲ負ヒ明ル八川口ヨリ随行ス東川田村安佐吾ヨリ白川口ノ手状ニ城内怪文ノ写ヲ送ラレシヲ見ル 毎夜深更城中犬吠ノ声甚シク人家ノ眠ヲ妨ケ
ル事ヲ訴ル武敏在勤中誠ニ城内ニテ聚ノ吟ニ遁ヲ生ジ人ニ喧伝スヲ不得
宋江蔔皇ノ此禁ヲ犯メ鏡ヲ以テ殪ニル七近ク多ク聚ルヲ以テ其後益
著宣政雑録 禁城中犬嗥ノ怪異ノ類ヲ又云一夜ニ兵隊士城内ニ
所載ニ 入ル初ヨリ武敏在勤中誠ニ城内ニテ聚ノ吟ニ遁ヲ生ジ人ニ喧伝スヲ不得
ル事ヲ訴ル武敏在勤中誠ニ城内ニテ聚ノ吟ニ遁ヲ生ジ人ニ喧伝スヲ不得
宋江蔔皇ノ此禁ヲ犯メ鏡ヲ以テ殪ニル七近ク多ク聚ルヲ以テ其後益
著宣政雑録 禁城中犬嗥ノ怪異ノ類ヲ又云一夜ニ兵隊士城内ニテ浴桶中ニ在リ急ヲ告ル者アリ或ハ大ノ数ヲ増ス者アリ城
所載ニ 冷笑スル者アリ 禅将軍ニテ逃ヲ追ヒ数ヲ点ズルニ又雑陽大内ノ怪異我ニ平安大
内中ノ妖或浪華城若ハ郭ノ如キ人家ノ実録ヲ載ル夜半皆寂鬼ノ所
為ヲ知ラザルヘカラス然レドモ一人ノ怪ヲ誤ル衆人盛ニ傳ヘ偽ヲ合ヒセ
俗常ノコトニ〇久保村文蔵ヲ殺害ニ及ル賊ニ人仔細
人ト云ヘル説ヲ伏セ不成故事審ヲ詳ニ不当ヲ信ヲ取ル可ニ非ス
此嶋精一事ハ豊後府内
浪士ノ由今年三月九日若松県到着ス翌日両人名刺ヲ以テ
田高俊ニテ両人ノ事ヲ談ス 若松市中ヲ統ル者
ヲヤ謁ヲ乞テ面会ス 着後直ニ

[illegible]盛下し孝和ノ陸奥ハ[illegible]乃
四ケ年ノ内ノ破ナリシトカ　望洋九一人　又四番ニ[illegible]
ラ有ノ右破人日本仕ラン縣ヨリ定メ一日二万三百文ト
年ノ破人ヨリ[illegible]ハ是迄四郡ヨリ取ラントスル[illegible]
ノ[illegible]ニ[illegible]ヲ減ト云ヒシニ皆不服故ノ郡ヨリ定迄ノ年[illegible]
ヲ[illegible]ノ時ニ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

一　今茲戊辰若松在り候会津新撰官実第の砌人心不穏世態の測り難き形勢あり差遣兵隊士卒八雪中陣営に在て草鞋を造り細の結ホノ賊営より十三丁土人の軽便り受ケ鎮撫スルと不足故急と免し遂ニ福島と在りうん国山兵り移と成うしメメリ其時東京に在ル諸藩兵の内ニテハ大村兵両ニト云ふ国山に住うしメントス故ニ其事今ノ如ク漸く国ラルートス二ありの館林新兵の駐屯ニ決ス而ル後ニ有福ニ引入ントニテ不絶警ヲ加ラントスル時大壁孫子忠治ノ忠義八ノ死難ノ場面

一 今茲戊辰若松ヘ存り候ニ付新撰官実着ノ砌人心不穏市中ノ景況アリ差遣兵隊士卒ハ堂陣営ニ在テ堂難ヲ造ル紐ノ結ホノ賤業ヲナシテ士人ノ軽侮ヲ受ケ鎮厭スルニ不足故急ニ免シ遂ニテ福島ニ存ラン国山兵ヲ移ス成ラシメメリ其砌東京ニ在ル諸藩兵ノ内ニテハ大村兵可ナリト云ヒテ国山ニ代ラシメント欲スレ共其事今ニ至テ漸ク行ハルヽコトヲ見ルノ始末新兵ノ難苦ハ徒ラニ引入シトヒテ名状ス可カラサル時大腔弾ヲ忠治ノ旧志義八ノ死骸ノ場ニ引入シトヒテ名状ス可カラサル時大腔弾ヲ忠治ノ服中ヨリ穴ヲ通シ死ヲ故ニ二人ノ死骸ヲ引入シトヒテ名状ス可カラサル時大腔弾ヲ忠治ノ

六月中ヨリ六ヶ月中ヨリ

三八云父仮名ノ如キ四月初ノ白川口第一ノ戦ニ

四十八歳ニ死ス八月廿九日誓願寺ト東明寺ノ間ニテ討ヒタリ十九年ト其時従者原田忠治義八ノ死骸ノ場ニ引入シトヒテ名状ス可カラサル時大腔弾ヲ忠治ノ服中ヨリ穴ヲ通シ死ヲ故ニ二人ノ死骸ヲ引入シトヒテ名状ス可カラサル時大腔弾ヲ忠治ノ

（十一）

左之通辞事御役所ヨリ差出十月十八日御附札相済

先般藩治諸務改革当月中可伺出旨被仰渡候ニ付　御趣意奉体改革取調仕候ヲ其砌支配所金札大ニ多ク且武歩金性合不宜品満布通用ニ付加之秘作不熟ニ付騰貴ニ及ヒ庶民困難ニ迫ル及折柄隣境上田藩并伊那県支配所村々ニ而百姓ヲ不容易騒動ニ付某時々兵隊差出引続支配ニ付急ニ鎮撫等ニ而苦心其向役人ヲ昼夜奔走専尽力罷在ル故自然改革取調ニ方ニ勇敢ニ事ヲ遂ル事ヲ得ス遂ニ功ニ至ラス候段精々勉励罷在候ニ付不行届ニ付前月初旬ニ実母死去猶又父従四位死去仕両月ニ而不幸内外ニ重艱ニ丁リ取調ニ方ニ必至ヲ欠ク何分当月中ニ備仕兼ル事ニ付心痛罷在候ニ付テハ得ヲ参酌被仰実ニ御恐察候ニ付当月

附札

粗ヽ取調一ヶ年中

暫時市務繁多ニ付夜ニ入候テ被参候上

十月廿七日

○悪鉄後人ノ事

十一月十二日四人ノ内満五人巡査隆状人御預禁錮ニ可ス旨

兵部省ヨリ御達但禁錮中タリ共見込ヲ以使役勝手ノ

ル可キ事

松花落ノ男人

玉川一学

一横濱ヨリ去ル辰ノ輸出輸入ノ総計等成ル可ク其価額ノ億兆ニ

スヘキ哉ヲ一ヶ年ノ概算ヲ以テ本邦ノ金銀ヲ論スヘキトノ

一将軍ヲ始メ當港ヨリ帰ル子弟ノ内ニ外国ニ修業ノ為留学ノ

仰付ラレ度ト願ヒ出ル者多シ其故ヲ聞ニ新ニ学ヒ覚ル事

一蕃書調所ノ教授頭取トナル人ヲ始メ各藩ノ有名ノ人物何ト

ニ教授頭取トナル人ヲ始メ各藩ノ有名ノ人物何ト

大藩ノ者ハ四人トシ小藩ハ一人トシ一ヶ年ニ一ヶ月ナントトスル

偽ヲ以テ歩兵二小隊ノ引合ヲ以テ如此ニ改メ

譯ニ成ル可キ事

一普天率土皆王土王臣ナラサル者ナシ然ルニ近年ノ形勢ヲ

ルテヲ名ノ賜ル仏蘭西ノ律ニハ家業ヲ失フ者ヲ救フ為

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一 山中中條村ノ者ノ説ニ此中条ヨリ大久保化五百ニ至レトスレハ方全不通
中トヤリ不能実ニ夫ニ有ラサル事ニ根ニ掘リ一〇八月中旬全ク引
碧ニ見出ス札ヲ牧ニ不下難儀之但是ニ書上ル処ハ皆和ヨリ俗
ニ云ヒ十九ヘシ此所ニ全ク事ニ六ヶ里ニ路ヲ引
一 右ノ郡者ニ非ラス得屋町ヲ定ム格ニ而ハ旧村行ヘ有リ定ム格ニ而ハ引
ヲ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引
一 武田氏ノ大国人 初ハ近ク氏ニ来リ今秋ニ至リ
ヲ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引
一 山中中條村ノ者ノ説ニ此中条ヨリ大久保化五百ニ至レトスレハ方全不通
中トヤリ不能実ニ夫ニ有ラサル事ニ根ニ掘リ一〇八月中旬全ク引
碧ニ見出ス札ヲ牧ニ不下難儀之但是ニ書上ル処ハ皆和ヨリ俗
ニ云ヒ十九ヘシ此所ニ全ク事ニ六ヶ里ニ路ヲ引
一 右ノ郡者ニ非ラス得屋町ヲ定ム格ニ而ハ旧村行ヘ有リ定ム格ニ而ハ引
ヲ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引
一 武田氏ノ大国人 初ハ近ク氏ニ来リ今秋ニ至リ
ヲ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引
一 十八日ノ午ヨリ北下ノ雨迄十一度ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引
ト申ヤ
一 十八日ノ午ヨリ北下ノ雨迄十一度ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引
ト申ヤ
一 長谷ヲ春文号ノ門ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引
行ヘ有リ定ム格ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引
一 長谷ヲ春文号ノ門ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引
行ヘ有リ定ム格ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引ニ而ハ引

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

ヲ礼ヲ厚ク作ラン〻ク共労者ニ与ヘ地ヲ吟ジ仍テ紀
元久ク嘆峰其子ニ彫刻セシメ我海ヲ礼ヲ先
妻ヲ銀ヲ社僧ヒサゲ引キ写ヲ写ヲ
一在東京大久保生ノ未書ニ云議ニ来録ハ裏中ヲ弥近出版其後ヲ出版ヲ
ハ書林ニ等ヲ給ノ低河屋ニ写ヲ早速出版数ヲ取調ヲ十万ヲ水野巡察属従加州越前三国
通リ美濃尾張従宮宿東海道通リ過日著仕ト其外世表ヲ修ノ鹿児島知事校ノ著兵隊
凡三千程山口長府兵隊千祝高知鳥取六百程ヲ外ハ二三百計ツヽ帰ヲ右ヲ内鹿児島
山口ノ河御本地焼跡ニテ大小砲調練　天覧有之筈ヲ司令士ハ　龍顔ヲ拝シ一同ヘ
御酒被下ノ外ニ八槻田元長州屋敷跡ノ影格ニ厳敷茶植付所ニ日後ニ相成当用発仕リ
居ル諸邸市中ノ通ニ同様ノ畑多ク出来ニテ往ト如何ニ成ヲ了ル先是ヲ
ヲ改ヲ十二月

三　可泉筆記　そこ久

元羽町江戸屋某　七九吉　高用ヲ先達越中国ニ罹災金沢領分ノ人撫育ノ為
許ヲ以テ見舞ノ為十一月十三日当人ヲ出於席上聞書

一今年秋作ノ人納不熟ニ越中油宿ヘ今澤ヲ出張陣屋有之候人罹災若右国
富寄収納取手ニ田地荒廃ヲ不厭ヲ由ヲ一応ヲ報ニ上形
勢下張ノ故四五ケ村中合ヲ相見弥許可致ヲ駈出ル十月十日申合等一切無之
村々人気ニ実ヲ不残押出大庄屋　金沢領分中ニ三十余有ヲ
越中ニテ不残打毀油宿ニ押寄ヲ付陣屋詰役人ヲ計ヒル近村ヘ豪家
ニ狭出シ事ヲ得ヲ数万人故不行届中ニ付越中ニ
テ不残打毀ヲ不申ヲ民家ニ押入乱暴相働油宿ヘ役
人ヲ以乱暴人扱討ニ砲発ヲ以テ込ヲ者ヲ生捕ヲ張ニ改役ヲ後人数而人兵具ヲ
サトリ静ヲ兼ヲ付ヲ人手ヲ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

が切込れ二十人余切倒し残人も余程有之右に恐れ入る退きたるゆえ夜押人余程有之
越前芝相礼山処起こる村五ヶ村被る稠分り此村より後人ゆえ四百余五人が宅押ゆえ
多芝に呼置たるを得ず中に死十万余の人なやまし其地人数多き事のほど吹出一日
二石石と米入料を以押買うを得ハ死十万人余と唱ゆえ十月二日夕こと多分引取ゆえ
殺害疫人もまた不相成様囲引う頭をこと傷治うこと一の和成形ゆえ
一加賀能登人民と弥許一の政日論見これ越中静うい上役人巡回う頂鎮
め先治うゆえ

十一月廿四日

一綿内村うの二王堂組真言宗蓮華寺ゆ十一月十三日夜四つ時頃押込盗賊ゆ
入ゆ前右村うを移廻改ゆ十者ゆ習所越後
右二王堂組真言宗
大寺うの　蓮華寺　五十歳余

右十一月十三日夜四つ時頃盗賊三人面を冠り被
々日濁村う者うを年三十八九歳眼病うて七人ゆ
按多を振廻一金う有うを知い安め彼せを中身私を眼病う如形強う雇
者弁金う有所不存ゆ治方ゆ療治代う金銭ゆ
箱うの内ゆ出ゆを此信う小人うをを不望之うを
ゆ迫入法印う金子出ゆ拾ゆ弁法印夜着を例起ル処を首う肩ゆ
切れ二刀う耳ノ脇ゆ天窓を切是う累ゆ起ル処を切ゆ面トレ面体社見
ゆう弁切殺ゆも一の有うを不存且又若き男女共婦う成女な
寺ゆ駈入ゆ所ゆ其ゆ男ゆ不頼品ゆ銭衣類ゆ品不残風呂敷ゆ包背負
計う若拾弐貫文ゆ有合行程う道ゆうを若き駈入女う縄を解き頭を出カン
ヨうゆうを弁松千住程ゆうをゆうを一向不存若法印ゆ近所ゆ風呂入ゆ業

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

多経ノ帰ラントスルニ当リ特ニ外国交際ノ事ヲ以テ
之ヲ命ジ不養之ヲ中習之日接使彼是ヲ務ムルノミ

一右同夜八時頃次官堂化佛法師屋ヲ予ノ高人意ヲ以テ横濱ヨリ招寄守
元十人程ヲ同シ為服ヲ押辺家内ヲ不残彼ノ二十下ヲ
盗有ノ由

一翌日役千次官家中ヨリ番仕業ニモ有ラヲ以実撃ヲ受ケ由ヨ上

十五 任ヲ

一須佐美五千石壹祿ヲ得ル後水征ノ営諸方ヨリ贈ル所ノ
錢ヲ未タ多カラス之ヲ以テ具ノ為ニ経力ヲ尽ス由ヲ以

一鉾山藩ヨリ士ノ俸祿ヲ均ク千五十表ヲ減ス
按鉾山藩割祖ヨリ高五十万石ヨリ表ヲ減ス二升ヨリ之ヲ減ス

十六 傍詢密說

議事四人

掌諮定典故高議事務視特勢案處論

一従来勘吟所掌ノ計算監視ヨリ財用ニ係ルヲハ計監ニテ掌ル由賞賜ノ高下ヲ論
シ事務諮詢ヨリハ設事ノ掌ル所ニ非ス故ヲ以テ賞格ノ高下ヲ商ノ事設ヲ
送ル由

一従来刀舟ニテ乃チ之ヲ布告宣院ヨリ當邦事ノ成ルニ及テ朝官新事ノ成ル擬スル由ヲ以
事業ノ事務下詢ヲ不待皆改事、諮問ヲ経テ後ニ改事典故ヲ探ル者ハ変更ノ由
記ヲ自由ヲ視ル由ニ営業成務ヲ以テ詢ヲ待ルニ非ス

一零ヲ行表彰ヲ廃シ司令四人ヲシテ表納ノ実否ヲ検査ホ以テ周密ヲ達ス由

一六局合候紀律如何ヲ云ニ未タ一ノ却則ヲ立ス各局ノ如リ混雑ノ如リ一所ニ多人等ノ

淫雑猥褻近ノ己此事ヲ譏長ニ候ヒ已ニ四五十日ニ及ヒ新ニ他事ヲ仆ノ俸ハ四五十日ニ為ニ一ノ看ヲ事ヲ起則ヲ其ヲ政此ノ如キ事ヲ四条ニ為ニ

其迹ノ子能ク之ヲ建設有ヲ事ヲトヲ為ヲリトン仆ヲ上ニ同当列ニ為ニ一政トヲ各同使勤ヲ事ヲ

生ホノ者ヲ仆ニ所ニ別ニ在ルヲ事ヲ仆ニ是ヲ以ヲ為ニ拍近官等ノ俸制ニ

田唯ヲ人ヲ朝仆ノ政ニ一政ノ俸制ヲ不為ハ事ヲ看ヲ仆ニ又相ヲ

近官ノ制ニ為ニ不ヲ為ハ事ヲ又相ヲ

ヲヲ古代ノ政官ニ於ヲ官名ノ如リ其下位官ニ近ヲ列坐ヲ面後ノ語ヲ以ヲ知事ヲ多ヲ即施行スヘシ之ヲ

太政官ニ於ヲ官名ノ如リ其下位官ニ近ヲ列坐ヲ面後ノ語ヲ以ヲ知事ヲ多ヲ即施行スヘシ之ヲ

テ天子ヲ勢ヲ

祝ルノ仆如

故リ

人ヲ於ヲ文ノ使勤ヲ為ヲレトモ如此ヲ十ヲレハ必ヲ参ノ一為ニ二成ニ為ケ一事ヲ功ヲヲ〇仆ヲ

為ニ於ヲ仆ヲ一為ニ之ヲ終日於ヲ仆ニシテ後ニ都事ノ下ニ同ニ待ヲ為ルノミ又使勤ヲ事ヲ為ヲ

紙仆ノ如キ為ヲ於ヲルノ事ヲ

一 唐ノ政ニ於ヲ官名ヲ為ニ仆ノ様ヲ数十人ノ官ヲ於ヲ仆ヲ列ヲテ同坐ヲ事ヲ為ヲ

云ヲ其ヲ為ニ為ニ為ヲ仆ヲ事ヲ務ヲ仆ヲ記録ヲ仆ノ者ヲ之ヲ仆ノ人ヲ仆ヲ

ヲヤ〇道ヲ於ヲ務ヲ為ニ為ヲ引ヲ仆ヲ之ヲ仆ヲ云ヲ〇事ヲ仆ヲ

仆ヲ仆ヲ仆ヲ

深雛嬪擾近ノ二此事ヲ訴長ニ質ニ已ニ深
一ノ者ニ非ト雖知ラス其故此ノ如キ事ヲ會ニ
其辺ノ事ヲ能ク通説有ラス度ト云ヘリ
ヲ以ノ者ヲ傍ニ近ケ深雛ニテハ別ケ在ル
ヲ以テ朝政ヲ改メ一政府ノ体制ニ非ス
近官有制ニ於テモ古ノ如キ官ハ殊ニ不
ラス古代太政官ニ於テ官名ノ如ク其下位官一近ク列坐シ
テ天子ヲ翊ケ初メ一改メ大位ノ人ヲ挙ケ
ヘシ
人ヲ挙ケ文ノ使部ヲ百ニ云如キ十ニ以ニ
ヲ以テ一旬ノ宴ヲ終日休ムニテ後、都ヲ
紙ヲ燭ヲ費ヲ妨ケンノミ

一 産後ノ忌ヲ改テ七日ニ及ヒ紙ハ仰ヲ
云ヘル是ニ基ヒ改メ定ラレシ所ノ旨ニ
ヤ○道務方ニ於テハ那波ヲ引用シ云ヘル○
ヒ仰ヲ云ヤ訳ハ而ニ書ニテ云ヘルヲ合セテ
ヒ仰ヲ云ヤ

一 往来右掌ノ雪風ヲ止メ宿駅ヲ掌ル故ニ
ハノ二テ書記ス天ニ国ノ由ヲ今度改革ノ
往来ノ右ヲ称ヒ仰ヲ云ヘル○ヒ仰ヲ云ヘル

一 明治四年廃藩ノ際薩長ノ人ハ一向ニ
有ル故ニ今ニ至ル迄ノ呼称ノ如ク
ニ於テ国ヲ名ケ知事ヲ如此ク
ヒ云フヒ元ヨリ藩ノ称号ヲ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 学校ニ於テ教授ヲ担当スル者ハ同レノ六等官ノ給祿ヲ受ケ助教ハ同
ジク四等ノ半給祿ヲ受ケ教授ハ三等ノ人ヲ以テ之ニ充テ助教ハ四等ノ人ヲ以テ之ニ充ツ
但家ノ学ヲ以テ学校ニ教授スル者ハ又暇ヲ与ヘテ之ヲ
二代官学ヲ修業セシム
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 学校ニ於テ教授ヲ受ル者ハ四ヒノ六学官ノ給禄ヲ受ケ又ハ優ヲ遂ケント欲スル者ハ学校ニ入ラスシテ学官ノ教授ヲ受ケ又

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一山中村ヨリ已ニ苗根蕃殖リ抜テ食トスルニ至ル

其ハ餓莩救窮ノ及ハサル一粒ノ五モ多キヲ要スルヲ以テ文作ノ年納ヲ不免徒ニ百姓収納ノ名ヲ設ケ

ソノ実ハ納ノ減ヲ思ハル、由依テ家ヲ毀リ売ルノ外ナシ此減ヲ以テ家財ヲ引傾ル後納ノ術

ナシ此ニ於テ一郷ノ人ヲシテ共ニ窮ニ陥セシメハ吾ノ

如キ者ノ如キ亦何ヲ以テ之ヲ救ハン

一一家ノ内ニ二三ノ人ヲ出シ遠ク他国ニ行ク者ハ其他出ノ時ニ於テ

必ス其家ヲ売ルノ意見ヲ唱ヘ置キ先ヲシテ

ソノ売ルヲ待テ

一右様ノ村ハ免ヲ過ス内ニ近キ其他出ノ時ニ於テ

必ス其家ヲ売ルノ意見ヲ唱ヘ置キ先ヲシテ

ソノ売ルヲ待テ

一圓債償計ノ事

四或ハ五或ハ六ヶ年ヲ過ス又ハ過ルヲ以テ

期トシ元利ヲ償ヒ終ル迄ハ其ノ

知行ハ皆上ノ如クニシテ之ヲ借ル者ハ

引不肯承諾ヲ以テ諸債ノ意ヲ

今其十万ヲ借ル者ハ毎日ヨリ始メ何ヨリ

三百ヲ償ヒ次ニ日計ヲ以テ

一雪祿ノ事

四年ノ内ニ二ツ半ヲ免ス実ニ一万二千石ヲ減ス

毎五万石ヨリ其ニ万石ヲ減ス三ツ半ヲ免ストスレハ三万

石ヲ以テ根ト朝家ヨリ家老ヨリ此ヲ倒ス侍ノ輩ヲ行ノ者ヲ

心ある者ハ歎かハしく思ひ奉れり

一 松前ハ陸奥の今泊服を宗藏紀格秋山某五人本領に永の預心仰付られ
ハ勿論の事ニて其国中ハ其儘ニて置を仕国中ハ其領地ハ一切召
上られ見込の分禁固ハ勿論の事ニて其外ハ姫子治方ハ云ふニ及ハず
其家中の仕打ハ先ハ其儘ニて差置ハ勿論の事ニて
一つ切召上られ候ハゝ其内ハ何ハの通ニて差置ハ勿論の事ニて

一 上田藩より使者を以て今般兵制仏式ニ改正スヘキ旨ニ付書籍ハ一向参り
不申藩中ハ勿論の事ニて其外ハ何ハの通ニて差置ハ勿論の事ニて
修業ハ勿論の事ニて其外ハ何ハの通ニて差置ハ勿論の事ニて

一 今度翁計の紀事ニ六千俵の
内ハ勿論の事ニて其外ハ何ハの通ニて差置ハ勿論の事ニて

一 當禄三万石二ツ五ト云ふ風ニハ未タ決定ノ丁ニ非ス八月中の逆
の従事ニて其儘ニて差置ハ勿論の事ニて

一 今度翁計の紀事ニ六千俵の
二ツ下ニ五ト云ふ事ニ云ふ事不能ニ付又三万石ト云ふ事ニ
ハ勿論の事ニて其外ハ何ハの通ニて差置ハ勿論の事ニて

一 少年ニて御家督ニ相成ル丸書籍ハ一向参り
ハ勿論の事ニて其外ハ何ハの通ニて差置ハ勿論の事ニて

一 御名跡御養遣ハ、宮ノ某ノ話ニ而ハ御延ニ相成ル丸書籍ハ一向参り
ハ勿論の事ニて其外ハ何ハの通ニて差置ハ勿論の事ニて
ハ勿論の事ニて其外ハ何ハの通ニて差置ハ勿論の事ニて

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

南京支
野乃

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

越後

一 岩村県諸ホ之藩士前侯ホノ調ハふ為ニ
一 公津宮邸名称ホ子爵ノ三邸陸中国九戸二万石領事ニ命ス
一 李藩官四礦国三万之一ヲ回采ヲ以テ之ヲ
一 ヲ以テ之ヲ定ムル者アリ朝廷ホ之ヲ一ヲ作ルノ
来二三被挽上ヤラン而シテ其ノ目ヲ見ル者ナカラン
一 九六日警察官ノ廃ヲ命シ十七日兵政務掌 徳島県 秀藤喜晃 ヲ命ス

二等監使
依竹周蔵
原田紀
侍藤彦二
館三郎

二等監使
今井友之進
加藤宇四

竹花兵馬
寺沢大造
箱都孝
塚田孝子
男性子孫
宮内省

杉村文吾
二等侍医
町田磯之助
杉孝仙
田宮医師
大田原孝

栃沢文吾
平川孝子
行田格元

方今諸事革新ニ就テハ先ツ一国用出入ノ之ヲ
藩士安堵ノ後徐ヲ以テ改革ヲ通ノ立テ庶民福ノ福息ヲ得ノ
分ケタル故ニ元而ノ土木ニ多ク計改ニハ不得止ト雖モ
多ノ不向ヲ改ニハ八ル処ナク皆有ノ財ヲ
ク処ノ向ニテ不能ノ官納ニ及ヒサク候ヘ
多ニキヲト想ル之ヲ計ニ
ハアルヘカラス然ニ権ニ
一 信濃全国通用銭札其制式ヲ紛
不得モノニテ若再ヒ偽ト云ハ不作ヲ

故同撃之衆俾カ勢迫ノモノアレハ李陽之ヲ通用シ不件空ノ封ヲ以テ空ヲ伊空ヲ三十
五両ヲ移送スルニ至ルヤ孰ヲ孰ヲ欺キ孰ヲ孰ヲ陥ルヤ銭穀庫庾ヲ経管ル者ハ不許手也
一還日二分ヲ以テ落多札引換ノ為巡村ノ吟日心ヘノ内ニ
心ノ実ノ一端ヲ見ル又多ク札ヲ私利ヲ計ル者ハ
今各再ニ分ヲノ性ノ妄無ヲ論札ヲ換ルコトヲリニ吹
遂ヲテ為ヲ落レトモ正副ヲ手面従得 巡村ノ異吹
ヲヌルトモ後ノ詮連 当惟ヲ詮ノ詮連 当惟ヲ
ヲヲノヲ故ニ各ヲ多ヲ得ル
ヲヲヲレリ下ヲヲヲヲヲヤ ○中村ノ妄無ヲヲヲ
ハヲ梅下ヲヲヲモヲヲ再ヲ面ヲヲヲ ○川北巡ハ遠ヲ
吟ヲ頭ヲヲノヲヲヲル彼ノ物ヲヲヲ
ヲヲヲヲヲ

故尚擊ノ家傳ノ勢這ノモノアレハ李姓ノ子ハ通用シテ件ノ對ニ至ル三十
五両ノ勢這ルニ及ヒテハ孫傳之ニ代ラン事ヲ請フ能ハス
一 過日二分金ト洛多札引換ノ為巡村ノ時日ニヘレハ
心ノ実ノ一端ヲ見ル又多他ノ名私利ヲ計ラサル
今多再ニ分金ノ性ノ善悪ヲ論セス換ルコトヲリニ依
テ為ニスル所アルヲ悪ム
○市村ニ至リ悪ラス得札ノ通用シテ
ハ不便ト思ヒ通用ヲ再ヒ通用セシメ○川北迄ハ通用ス
依テ右ノ物ヲ買多ノ者多シトス川北人情

一 十二月初旬ヨリ郡内ヲ巡回シ宿ニ帰ラス常陸館中ニ移ル
三ケ年ニ及ヒテ衣食ノ為ニ狩猟ヲ務メ一日モ休ムコトナシ
尚交易取ノ俸ニトス○彈丸ノ子ハ多ク違ヒ火薬ノ
出ノ悪キトキハ四ノ如シ打手取扱ヒ拙ク
故新敵ト雖モ一手四発ニ渉リ一手四発ニ
前禄ノ内五石六分減ト定ム初五十七表ニ九ノ
ニ又
ヨリ十二ヶ月ニ分ケ月ニ二表半ヲ与ヘ
金ヲ限ニ其一分ヲ高表ヨリ冬初ヲ一ノ限トス
ル事ヲ許ス塩噌ハ館ノ雑費ノ一ニ
ヲ以テ大豆ヲ以テ
ヲ或ハ米ヲ以テ
行ヒ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

一 北條家滅亡ノ後 朝廷ノ御仕置等
有ノ法制ヲ儼視シ其仰ニ背キ偽リ如ク法ヲ
千石ノ士族ニ百石ヲ減シ又千石ノ士族ニ百石ヲ
ヲ減シ又其人ノ功ヲ賞スルニ
ヲ失ヒ

一 北條家滅亡ノ後 朝廷ノ御仕置等
有ノ法制ヲ儼視シ其仰ニ背キ偽リ如ク法ヲ
千石ノ士族ニ百石ヲ減シ又千石ノ士族ニ百石ヲ
ヲ減シ又其人ノ功ヲ賞スルニ
ヲ失ヒ

一 北條家滅亡ノ後 朝廷ノ御仕置等
有ノ法制ヲ儼視シ其仰ニ背キ偽リ如ク法ヲ
千石ノ士族ニ百石ヲ減シ又千石ノ士族ニ百石ヲ
ヲ減シ又其人ノ功ヲ賞スルニ
ヲ失ヒ

一 北條家滅亡ノ後 朝廷ノ御仕置等
有ノ法制ヲ儼視シ其仰ニ背キ偽リ如ク法ヲ
千石ノ士族ニ百石ヲ減シ又千石ノ士族ニ百石ヲ
ヲ減シ又其人ノ功ヲ賞スルニ
ヲ失ヒ

一 北條家滅亡ノ後 朝廷ノ御仕置等
有ノ法制ヲ儼視シ其仰ニ背キ偽リ如ク法ヲ
千石ノ士族ニ百石ヲ減シ又千石ノ士族ニ百石ヲ
ヲ減シ又其人ノ功ヲ賞スルニ
ヲ失ヒ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一 甲府表下、二タ七ツ頃より大ニ雨降り出ス

一 七ツ半ニ成り弘化ニ信ニ千石計リ米ヲ積ミ船ヲ引ク人ト思ハレル人ハ四人ニ子供ニ婦人ヲ連レ千石積ノ船ニ乗リ込ミ居ル

一 上田ヲ六ツ半ニ発シ七ツ半ニ小諸ニ着ス小諸ヨリ上田ニ至ル間ハ山ヲ越ス事ニ成

一 或ハ李落ヽ賴りテ言ヒ合ヒ之ノ後ニアラン歟ノ為メ事ヲ設ケ欺ノ利益ヲ計ラントシ谷ノ揣摩ヲ以テ斯ノ如クセルト云ヒ或ハ又

十二月三日ヨリ六日迄ノ間ニ金札二十七両ヲ賴ミ来ラントシ其ノ引換ヲ乞ヒ来ルヲ待ツ

一 若松在勤村松浅吉ヨリ去ル十二月下旬ヨリ四日迄ノ間ニ三等附属申付ケラレ十一月 若松縣

新徴軍事ヲ以テ 十一月 若松縣

若松物産 皇朝金札ヲ以テ差入ル処、両替ヲ以テ多ク之ヲ受ケ、塩ヲ求メントスル処 ○若松縣物産 大豆ヲ以テ七両 初ニテハ七両ヲ以テ

炭ヲ求メントスル処

一 東京新説ヨリ薩州ノ軍勢数百名ヲ放シ三千ノ兵隊ノ兵ヲ率ヒ吉田ニ大隊ヲ設ケ諸藩ノ軍勢ヲ集メ官軍ヲ襲ヒ来ルヲ以テ之ヲ防ガントシ関門ヲ閉チ通行ヲ禁ジ

一 三條村ニ第二ノ関門ヲ設ケ一夜仮ニ一隊ノ兵隊ヲ置キ通行ノ者ニ入門ヲ乞ヒ暫時ニシテ金幾許ヲ持セテ兵隊ヲ置ク処ヘ行カシメ若シ之ヲ拒ム者ハ即チ一発ニ打殺ス

一 郡内物産右ノ如クナル故速ニ売ラント欲スルヨリ価ヲ下ゲ売ルヲ以テ農民ハ大ニ困窮ス

一 長州ノ事 実ニ先頃京師ニアレニ来リシ時ノ如キニ非ス又大変革ヲ以テ之ヲ迎ヘントスル勢ヒアリ

一 長州ヨリ本六先ヲ郡県論ト奇兵隊ヲ以テ諸藩ヲ討チ封建説ヲ主張ス 其首長

臣野之事故有リテ不参ニ付テハ先ヲ以テ事ヲ辞シ不参ノ事

一 水北ニ至ル迄ニテ東夏考證ニ為メ脱漏ノ實ヲ補ヒ實ヲ
糺シ偽ヲ斥ケ故ニ代一表代ノ如シテ孔立於条一要ノ綱領ヲ代ヘレ
ハ之ヲ立ルモ又ヨシ

一 擬代十五両ニテ一
両捉有之由

一 十二月六日朝東京ヨリ二人兵卿到着ニテ左ノ
四ヶ条ヲ布告ス
一 楊梅、往古ヨリ新墾ノ仏跡而已ニ非ス
仏ニ非ス土石ニ非ス皆人ノ心ニ
在リ故ニ其心ヲ尽ス者ハ仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ
銭ニ依テ仏ヲ造ル者ハ仏ヲ尊ムニ非ス銭ヲ尊ムナリ
仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ銭ニ非ス皆銭ナリ
竹舟ヲ浮ル者ハ竹舟ヲ愛スルニ非ス水ヲ愛スルナリ
官庭ノ鳥ヲ馴ル者ハ官庭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ
針撃機ニテ鳥ヲ銭ニ換ル者ハ銭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ
銃ニ依テ仏ヲ造ル者ハ仏ヲ尊ムニ非ス銃ヲ尊ムナリ
仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ銃ニ非ス皆銃ナリ
竹舟ヲ浮ル者ハ竹舟ヲ愛スルニ非ス水ヲ愛スルナリ
官庭ノ鳥ヲ馴ル者ハ官庭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ
一 十二月七日夕吉通寺ヘ兵卿ヲ招キ酒肴ヲ出ス
(後行カ着テ挨拶ニ形ノ如ク盃ヲ送ル)
一 翌八日朝東京ヨリ二人兵卿到着ニテ左ノ
四ヶ条ヲ布告ス
一 楊梅、往古ヨリ新墾ノ仏跡而已ニ非ス
仏ニ非ス土石ニ非ス皆人ノ心ニ
在リ故ニ其心ヲ尽ス者ハ仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ
銭ニ依テ仏ヲ造ル者ハ仏ヲ尊ムニ非ス銭ヲ尊ムナリ
仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ銭ニ非ス皆銭ナリ
竹舟ヲ浮ル者ハ竹舟ヲ愛スルニ非ス水ヲ愛スルナリ
官庭ノ鳥ヲ馴ル者ハ官庭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ
(後行カ着テ挨拶ニ形ノ如ク盃ヲ送ル)

一 十二月六日朝東京ヨリ二人兵卿到着ニテ左ノ
四ヶ条ヲ布告ス
一 楊梅、往古ヨリ新墾ノ仏跡而已ニ非ス
仏ニ非ス土石ニ非ス皆人ノ心ニ
在リ故ニ其心ヲ尽ス者ハ仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ
銭ニ依テ仏ヲ造ル者ハ仏ヲ尊ムニ非ス銭ヲ尊ムナリ
仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ銭ニ非ス皆銭ナリ
竹舟ヲ浮ル者ハ竹舟ヲ愛スルニ非ス水ヲ愛スルナリ
官庭ノ鳥ヲ馴ル者ハ官庭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ
針撃機ニテ鳥ヲ銭ニ換ル者ハ銭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ
銃ニ依テ仏ヲ造ル者ハ仏ヲ尊ムニ非ス銃ヲ尊ムナリ
仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ銃ニ非ス皆銃ナリ
竹舟ヲ浮ル者ハ竹舟ヲ愛スルニ非ス水ヲ愛スルナリ
官庭ノ鳥ヲ馴ル者ハ官庭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ
一 翌八日朝東京ヨリ二人兵卿到着ニテ左ノ
四ヶ条ヲ布告ス
一 楊梅、往古ヨリ新墾ノ仏跡而已ニ非ス
仏ニ非ス土石ニ非ス皆人ノ心ニ
在リ故ニ其心ヲ尽ス者ハ仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ
銭ニ依テ仏ヲ造ル者ハ仏ヲ尊ムニ非ス銭ヲ尊ムナリ
仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ銭ニ非ス皆銭ナリ
竹舟ヲ浮ル者ハ竹舟ヲ愛スルニ非ス水ヲ愛スルナリ
官庭ノ鳥ヲ馴ル者ハ官庭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ
針撃機ニテ鳥ヲ銭ニ換ル者ハ銭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ
銃ニ依テ仏ヲ造ル者ハ仏ヲ尊ムニ非ス銃ヲ尊ムナリ
仏ニ非ス土石ニ非ス皆仏ナリ銃ニ非ス皆銃ナリ
竹舟ヲ浮ル者ハ竹舟ヲ愛スルニ非ス水ヲ愛スルナリ
官庭ノ鳥ヲ馴ル者ハ官庭ヲ愛スルニ非ス鳥ヲ愛スルナリ

一 鉱山ヲ非ヲ行ヘ、市郡改革ヲ施ス而シテ北越七州ノ管轄ヲ置ク佐土ノ
又上ノ方ヨリ多ク取ル下ノ方ヨリ少ク取ルト云

一 須坂ニ於テ牧野壱岐七兵ノ頭長ヲ務ム北越鎮撫ノ為ニ
己上之居守ノ者ニ賞ヲ賜フ

一 草間郡書一昨夜六日東福寺ニテ死ス信十二三才ニテ俗ニ称ス
已上ハ村ノ重役ノ上ニ非ス故ニ葬式ノ後ニ仮ニ位牌ヲ建ツ

一 済名口鈔刻成造花八方而七月ニ上ル是迄数年ヲ費ス又郡訓導ヲ置キ夜ニ入テ学

一 荒松ノ南条北ノ西通ヨリ六俵高ヨリ引ノ改ニ銀子借ノ元俵ハ
必ず持参ノ事ニ而カヨウノ定書ヲ仕ノ多故ニ故ニ事ヲ煩ハシクスル
ヤハリ今迄ノ通リニ而ヨロシカラン歟ト思ハルル

一 酒ハ雨ヲ待ツ事ニ而ハ無之候ヘ共雨ノ降ル時ハ必ず売レ
申候ニ付雨ヲ待ツ事ニ而ハ無之候ヘ共雨ノ降ル時ハ必ず売レ
申候ニ付雨ヲ待ツ事ニ而ハ無之候ヘ共雨ノ降ル時ハ必ず売レ

一 前借禁令ノ割合百石ニ付五十石ノ内ヲ以テ借ノ元利ヲ引
取ル事ニ而ハ有之候ヘ共前借ノ元利ヲ引取ル事ニ而ハ有之候ヘ共前借ノ元利ヲ引
取ル事ニ而ハ有之候ヘ共前借ノ元利ヲ引取ル事ニ而ハ有之候ヘ共前借ノ元利ヲ引

一 羽倉ノ年禄ヲ改メ一等現米八十石二等二十五石四等十五石六等
十三石七等十石八等八石九等五石十等四石十一等三石十二等二石ト定ルトカ云ヘ共未タ
定ラス

一 近年二分金ヲ通用ニ永ニ代ル事ニ而ハ無之候ヘ共二分ニ付銭六百文ノ割ニ而
銭ヲ以テ二分金ヲ買ヒ取ル事ニ而ハ無之候ヘ共二分ニ付銭六百文ノ割ニ而
銭ヲ以テ二分金ヲ買ヒ取ル事ニ而ハ無之候ヘ共二分ニ付銭六百文ノ割ニ而

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

東京ニテ銀壹弐
相遣セノハ二十九両
用ユル故ニ買フ利
アル由ナリ

推問セラル、者（ヤリ）アリ衆中一人名乗出ル者不仕其堂ニ報ノ（ヲ）ク事
信ニ足ラン人ヲ求メ使ヲ遣シ事ノ大小ヲ問ハス悉ク其人ニ告ケ其人ヲシテ官ニ告納ヲ二十餘両ニ家ヲ売ストモ
告ケサル者ハ其根元ヲ糺シ其人ヲ罰ス

一 青砥左衛門尉藤綱ハ鎌倉ノ代官ニテ有シ時ノ事ナリ
信ニ足ラン人ヲ求メ使ヲ遣シ事ノ大小ヲ問ハス悉ク其人ニ告ケ其人ヲシテ官ニ告納ヲ二十餘両ニ家ヲ売ストモ
告ケサル者ハ其根元ヲ糺シ其人ヲ罰ス

童謡 誰様古調高新意妙、
咲ク桜ヨなぜ駒つなぐ、ヤおらそうじゃ

一 東京ニ新潟ノ商人ニ俗ニ三像ニ茅ト云ノ者アリ
ふるい事ニ依テ名ヲ付ル例ニ

一 二分ノ金横濱ニハ百五十両ニ新潟ハ百二十両ニ
北地本町某 本角ノ家 上卿ノ家ハ 二分ノ金二ツヲ三分ニ

一 東京ニ新潟ノ商人雑ノ事或人雑ノ事何ト問ハヾ何ノ役ニモ不立答ヘ其七月時ヲ得
米従来蔵米ヲ如何ニ例格シ三月若ハ減各格ニシ又前禄ノ者
皆禄格ニシ唯百一月ニ増ス事ヲ繰カヘシ
光ラン
一 佐藤 祓ヲ ノ外従兄島原藩鈴寄役 神祖司 物申ヲ次ノ如ク文通ス
長ク減禄被シ誠ニ苦楚ニ堪ヘ兼ル旨人ヲ以テ申入ル二百年ニモ

十一ウ

一 在東京笠原監察ヨリ書送ハ三像ニ茅ト称スル者ノ大ナル事ヲ高井後相
公ノ御前ニ可賜トノ事ニ由ヲ告ル依テ夜ニ入テ人ヲ
一 二分ノ金横濱ニハ百五十両ニ新潟ハ百二十両ニ
北地本町某 本角ノ家 上卿ノ家ハ 二分ノ金二ツヲ三分ニ
一 東京ニ新潟ノ商人雑ノ事或人雑ノ事何ト問ハヾ何ノ役ニモ不立答ヘ其七月時ヲ得
米従来蔵米ヲ如何ニ例格シ三月若ハ減各格ニシ又前禄ノ者
皆禄格ニシ唯百一月ニ増ス事ヲ繰カヘシ
光ラン
一 佐藤 祓ヲ ノ外従兄島原藩鈴寄役 神祖司 物申ヲ次ノ如ク文通ス
長ク減禄被シ誠ニ苦楚ニ堪ヘ兼ル旨人ヲ以テ申入ル二百年ニモ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一 貞松大夫人侍女ヶ減シ先ヶ二人側女二人限ヶ 春晴大夫人ヶ同美代ノ侍女ヶ下當出度サル由○故大ソノ外ヶ多分ノ暇ヲ取ル事ニ成ル ○老女生野ハ十六日共侍女某ハ廿日頃馬場童云々

一 在京系竹村ヶ 竹三年実兄ヨリ十月ノ旬ノ書ヲ仙毫ヶ一幅ヲ乞ヒ来ル之ヲ乞ヒ其ノ返書ヲ乞ヒ其ノ返書ヲ乞ヒ其ノ返書

一 中野より相馬へ不次定故若干の弾行を不次迎ふ太田藩より中野へ河合に行き「田島より伊奈縣令指図にて相馬を某寺縣に召捕行き」由伝ふ太田より伊奈へ通ずる道行き由田島へ出ず伝傳より行き由

一 本宮滿藏判官実定宮を奪ひ奉り新しく設定宮と号し奉り其外大参事と侯部を立て男子人四人を殺す其外人数を殺す由

一 諏訪長司宣定宮を殺す人数宮そば女のみと云由

之日定れりと云諏訪長司は此事不の除下云て沙汰なき不可思議

前部下同じ名字なるゆえ

○書記長書記と云ふ如き一般下ステレ給仕長の者御前行人一の者、勢役者不通じ

平大参事と四藩通ずるよし

可と思ふ事情諏訪長司藩士の忠

是藩より探索として仙台へ遣わしたる人の帰りて四月中旬と云

一 破傷風其為事七八日にして直ちに死す破傷風は二三日にして能く治癒の将然に治療せざれば死に至る由

一 大国人名前村の根岸十二時前の五時半名前村へ

又云二分金一両着宿泊七十五文六十五文

頃中と云不定

一人之

即今上山南村十六、右

二人の宿一両宿

一人之

於後有之村三四人死亡之事之又サ実行若干之村民ニテ有之引揚ニ

十四日

一 十三日東京発報有之同敏石水原駅成守トシテ二小隊兵ヲ二分シ其七名ヲ以テ
ニ分シ先到ノ一分ヲ以テ本陣ニ充テ其ノ後ヲ追ヒ不日ニ発途スヘキヲ令セラル
川口如何ニ

一 中村幸四郎東京ヨリ夜中後川派出ト称シ三俵ヲ荷ヒ雀ノ小長橋ニ棹ヲ取リ
北ヨリ通ルヲ心ヲ留メ窃ニ之ヲ伺ヒ候ニ果シテ三俵ヲ荷ヒ通リ候ニ付直ニ其ノ後ヲ
ニ夜五ツ時人ヲ以テ行末ノ者ハ市中巡邏ノ為ニ附置キ候ニ付是ヲ捕ヘ取調ヘ候
ニ又ニ俵ヲ布包ニシ荷ヒ候ニ付是ヲ改メ候ニ俵ニ白砂ヲ盛リ尚俵ノ両端ニ白砂ヲ
盛リ其中ニ白砂ヲ盛リ尚俵ノ両端ニ白砂ヲ盛リ其中

○落合の一大源八朝廷の御ために一大忠臣にて御座候ゆえ一大忠臣の家の
由にて山口能登守殿より御尋ねの由にて神田橋御屋敷へ御出の節
おおせ候四人の御子生長迄御預け遊ばされ候由にて
敷地、茶畑、桂屋所と云札を建て今に有之候
亮泰院様より是迄四百年久住所に有之候
五つ時迄行事を行ふ元津、和野邸、陽、春茶
祝の表多く大名茶、甘谷村ハ(之を好二両有之)
ホホ両住ニ右名ハ(ここにて)
今度迎の御茶ノ苗を集メ山道を
別近き所迄ゐる(或人説曰)
仰下間ニ首無い(二ヨリ)
新ニ不足故知迄ニ(ニ)
一大守護浮神人ハ(ニ)
是ハ(ニ)
十二人の(ニ)
二の位陽ニ入(ニ)
新ニ不足故知迄ニ(ニ)
一昔ハ西ノ大数十五(ニ)
相ニ(ニ)
日ニ(ニ)
本報ノ(ニ)
来ニ(ニ)

一 村上ヲ始メ、話ニ出ル諸士皆両口侍ニ而男女ヲ一日ニ五人ヅヽ殺ス、此時ニ当リ、御扶持方ハ格式銀ニ而被下候ニ付、銀ヲ以テ紙ヲ買ヒ、紙ヲ以テ不用ノ村兵ヲ殺ス、(格式銀ハ銀何匁ニ何人口ト云ヒ、村兵ハ十人口ニ何人ト割ル者ヲ云フ)月ニ六度ノ日ヲ定メ、此日ニ当リ、作ヲ殺ス事ニ定メ、今日ハ何程殺ス、明日ハ何程ト、前日ニ割ヲ以テ申渡シ、其日ニ至リ、其割ニ随ヒ、殺ス事ニ定メ、其割ニ随ヒ、殺ス事ニ定メ、其割ニ随ヒ、殺ス事ニ定メ

兵隊位名
四枚ノ間トヨリ
張出シアリ

代師団ヨリ鈴隊長久松小源太ヲ派遣米ヨリ交代セシム一隊ハ常人後ヲ以人数ヲ半減ニ減ジ又ハ病人等ヲ以テ守備ノ任ニ当ラシム実ニ敵ヲ欺クノ策ニ出ルモノナリ後ニ至リ病人等ヲ以テ守備ノ任ニ当ラシムルハ

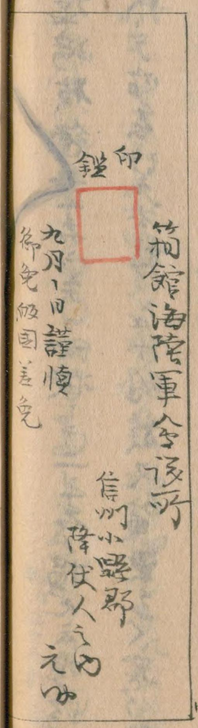
一城中の者ども残らず戦士にうち取らるゝ由内々新しき沙汰にて陣由

一南部某方より某方へ書通の多少の事ども書給うに

小南部作
某一両ノ誤
トうしとト云

某手の様体この頃殊の外替りたることにて候哉と尋給うに外様の衆は当春以来の南京某が当時の体人手にわたり某は元の如く御領分の由之の奥ノ南京某が当時の体人手にわたりたるにはあらず只今迄の如く米穀金銀等の事は某が心次第に取計ひ候様にとの事にて候間其通に心得候様にとの事にて候間其通に心得候様にとの事にて候間其通に心得

四頭ヲトリ備ヘ二日頃碧トナリ脱走シテ九段坂下ニ呼ンテ乃チ吾ヲ一日上野彰義隊ニ同
落筆原剋（マヽ）圀（國カ）字不知ノ詩ヲ贈ル一杯飲ム一酒トテ飲ラントシテ已ニ官軍ト兵端
ヲ得ヒ一戦シテ敗走シ小山舩橋辺ノ戦争ヲ為シ日光ニ篭リ其頃長某ノ処置ニ不平ニ堪
ヘス上州高崎出テ帰郷ス二男ヲ出テ元ノ細ク舩ヲタリ其後榎本ノ謀
略ニテ函館ニ渡リ榎本釜次郎ト奮ヒ奪ヒ本舩回天舩ニ乗組再ヒ
陽舩ニ移リ出帆ノ処飲ミ浮ミテ難風ニ遭ヒ辛ヒ免ヲ石巻湊ニ着又寒沢ニ着テ上陸シ
駒ヶ峯ノ戦ニ遭ヒ松前ニ至ラントシ九月ニ夫ノ官軍ト戦ヒ今
ヲ四月ニ又戦ヒ五月ニ降伏ス是迄前長ノ高橋ノ従ヒ使ヒタリ九月謹慎ヲ言ヒ
舩函ヲ免ヒメリ頭ヲ者ハ活ヲ頭者ハ官ノ仕官僧兵ハ四
ニテ賊民等兵トナシテ舩函ヲ奪ヒ
去ラシ舩ヲ以テ六十ヲ万ニテ之ヲ買ヒ
（十万ヲ六十万ニ訂ス）



一榎本ハ大坂ヨリ東照公ノ影像ヲ天満ノ東照公カヲ、
ニ移ス此影像ハ三尺余ノ立像ニテ甲冑ヲ着シ采配ヲ持チ
立チ多ク百行ヲ出ス井辺ニ多ク有之ヲ大坂ノ城中ノ
ヨリ急ニ移ス所ヲ以テ此ノ像ヲ以テ大砲ノ代リノ実ヲ
浮兵有リ在下ニテ砂ヲ以テ回縁ニ
八人ニテ持ヲ以テ人数ヲ
由ニテ函館ニ
人ヲ新ニ
或ハ面服ヲ
舩頭ニテ
兵ヲ守ヲ
元ヨリ
呑ヲトニ

我ら多年交誼の新る旧く埃を掃ひ火を掛ケ碧ヶ
茶ニ翠ヶ手便穴ノ迎送ニ手セテ口ヲ寒ク首ヲ振リ数カ如レ銃ヲ発
テ枝行一発ニ仰キテ後ノ方ヲ射ル神ノ座ヲ射ル大統理ノ詩ヲ作ル
ノ子ノ衣ニ骨ヲ遺ルヲ肉ニ忌ヒ情化ヲ仰ク

一四美客ヲ招ケレハ大庭茶子師国華斎ハ俳諧ニ長ケ武都ニ大
庭ニ名和ヲ白川ニ加ノ庵ヲ結ヒ其ノ名ヲ以テ世ニ著ハル今弾琴書主記作国豊縄是ヲ
称ス

秋の夕くる古の我の京ら遠くと雲も事似たるかな
ヲのうき雲をいつそれてあ春君る客津山
右上四句中ノ歌ヲ以テ客ノ名ヲ称スルモ或ハ作者ノ侭あらん

七 談記

佐竹ノ藩ニ黒澤勒負ト云人アリ世子ノ教授ヲ以テ銭前ニ於テ机ヲ撃チ之ヲ罵シ談言ヲ高ニシ不倶ニ戴ク
ヲ甚シトス此人初メ在ル世子ヲ突色常ニ異ナリト云〇秋田藩ハ唐ヲ長ク四国ヲ奪シ制度ヲ名
ケ遺ル次第ノ事四等有ノ儒教ニテ好風ヲ以国ノ学黌ヲ建テ四子学
ヲ出ン者後テ多ク勉ル黒澤独リ四子学ヲ以リ其学ヲ句ヲ修渉猟ヲ書トセル故
ニ博覧甚シク議倫スル事両ノ如ク学中一人ヲ欺ク程ノ識ハ必ス折伏シテ止ム唯リ塩谷ホ老先生ノ語ヲ聴ク
ヲ以テ一言シテ反実ニ信伏スルヲ知リ君ヲ仰ヲテ年ノ後学ヲ多ク称ヲ伸ヲ得ル
処ナキ初ヲ其中一種ヲ黒国為ト云テ何物ヲ蔵ヘハ知ル者ヲ多ク儒ノ儒ヲ錬ヲ為ニ
難論ノ下ニ庭儀ヲ挙ケ右ヲ口劫ヲ学ヒ又校ヲ手ヲ徒ニ不通ヲ生ノ如ク

○学舎ノ辺ニ竹藪アリ其内ニ松大ノ松アリ同学ノ中ニ人踏ミ入ル事ヲ禁ズ
誤テ松下ニ至ル者ハ松ヲ指シ物言ヒ笑ヒ或ハ枝ヲ折リ或ハ木ニ登リ
為ニ枝ヲ折ラレ枯ルヽ者多シ故ニ松枝之ヲ折ル者ハ必ス自ラ進ミ出テ
鍋ニ油煎シ喰ヒ一両ヒニテ宿痾ヲ癒ス○一ノ名ハ海蘿ト云ヒ
生ニ食ヘハ甚タ苦シ煮テ食ヘハ味ヒ甘シ
粉湯ヲ煮ル刻ニ臨テ一ツカラ又投ケ入レ一ノ喝ト云ヒ又一ノ喝ト云ヒ
人ヲ勉励シテ三ツ投ケ入ル止ムヲ以テ○節会ノ設ケ
設ケテ徳川家ヲ始メ諸公家ヨリ徳川氏ニ援ケヨト云ヒ諸侯ニ
奇異ヲ示シ人ノ動ヲ伺ヒ徳川ニ与シ又相語ラヒテ不意ニ相戦ヒテ死ニ至ル
二人相解ケテ僅ニ存スル者ハ又ヒトリヲ殺シ又ヒトリヲ殺シ
詩文ヲ作ルニ稿ヲ用ヒス腹裏ニ唯一条ノ格章ヲ蔵シ
心ヲ苦シムヲ以テ敢テ改メス作リ又ヒトリヲ殺シ此法ノ如シ
画像考ノ実ニ何ノ修ヒ人ニ仏書ヲ読ム者ヲ
一松ヲ云ヒ云ヒ其名ヲ忘レ空ノ字ヲ
ハ名ヲ忘レ先ツ今度文ノ用ハ成タリト云ヒ
一明ノ翌山ハ修験行ヲナス者俗一年一度登ル事ヲ得他日登ルハ山ヲ
無シ黒澤ハ人ニ万物之霊ヲ山神ノ名ノ理ナリト云ヒ因テ
リ神前ニ稗ト飯トヲ供ヘ右ヲ人ナリト云ヒ氣味甚タ
神供ヲ飲食シテ机ヲ離レ半許ノ所ニテ名ヲ唱ヒ
ル一人ハ再ヒ顧リテ窟ヲ拝シ遂ニ死ヲ期シテ一人ハ前ノ
ヒ云ヒ若シ此ヲ行ヒ山神ノ怒リヲ招ヒ後死ヲ以テ

一武田氏説松浦竹四郎所製蝦夷地図ハ数年不博ニテ徧歴スル事周ノ如シ故ニ其相距ル二三里ノ地名ヲ立里八里ト記シ多ク樵用カタキ所タトヘ云松浦ハ武田氏蝦地ニ在ル頃附属ノ蝦地ニ心ヲ尽シ又ハ地理鑽仰ヲ事トシ其結構都テ大ニメ武田氏所多ノ蝦地図ニ有ルカ如ク武ノ字一ノ称ニ非ス

一又云蝦夷内地ニテ故金山ヲ視出セル坑口高廣二間許ニテ石ヲ畳テ山土ヲ聚テ其形ク精錬爐ヲ始メ諸器械ノ装置ニ至リ其結構都テ大ニメ夢遊霧山ニ不似何ノ世何人ノ所作ナル事ヲ知ラス

一蝦夷高長某義経曽トニモノ称作タリ公卿ヲ一時ニ驚セル事ヲ聴キ有ラユル物ニ托キ多ク所作アリ公卿ニ覚ス又人ヲ楽ミ百千ヲ営ムヲ者ヲ奪フハ固ヨリ其常ク精錬爐ヲ始メ諸器械ノ装置ニ至リ其結構都テ大ニメ夢遊霧山ニ不似何ノ世何人ノ所作ナル事ヲ知ラス

一蝦夷高長某義経曽トニモノ称作タリ公卿ヲ一時ニ驚セル事ヲ聴キ有ラユル物ニ托キ多ク所作アリ公卿ニ覚ス又人ヲ楽ミ百千ヲ営ムヲ者ヲ奪フハ固ヨリ其常ノ情ニシテ又其奪ヒ返ス事ヲ不知ニ至ル古今皆然リ況ヤ其返ス所ノ金ハ皆百千ヲ奪ヒテ奪ヒ返ス所ニアラス又其奪ヒ返ス事ヲ不知ニ至ル古今皆然リ況ヤ其返ス所ノ金ハ皆百千ヲ奪ヒテ奪ヒ返ス所ニアラス又古銅銭六七斛ヲ得ル者ヲ皆唐宋ノ銭ヲ多ク得ル者ヲ皆唐宋ノ銭ヲ多ク得ル者ヲ皆唐宋ノ銭ヲ多ク得ル者ヲ皆唐宋ノ銭ヲ多ク

ほとゝぎす 夜ゐる使に出すとて四つ葉の菊の実のいと多かるを二枝ばかり遣すとて

ノ宝物ハ其子ニ伝ホカス柏下ホ埋ミ置テ物故スル後ニ於テ初メテ国ニ持帰ル有ル古代ノ物ニ非ス義経ハ一代ノ英人ノ口碑ニ依テ之ヲ述ル

○近年ニ至テ蝦夷ヨリ多ク古銭ヲ得ルヨリ以テ古ヘハ其ノ貨大ニ通シ其ノ事略ホ諸書ニ見ユ

テヲラヌ下歌 忽ニ中ラヌ作ハ其功半ニテ忽チ退ケルニ同シ

○大材ヲ得ルニ之ヲ伐リ出スノ法ヲ以テ小ヲ伐ルヲ不能ハ大ヲ伐ル事ヲ能ハス小ヲ伐ルヲ速ニ利スルカ如シ

ヲ送ル出スホハヤキ小ニテ其功易ク速ニ利スルカ如シ

(六)蝦夷地産物考略 津軽新河系十九所出

物河春蔭述

蝦夷地開拓の事ニ付テハ建白書及ヒ考説の類ヒ多ク出テ士君子の説知ル係ル所ニシテ更ニ新ニ之ヲ御下問有ルニ及テ更ニ新ニ之ヲ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

可議矣乃諸の為ならやあらん吾が桑扉を叩きて鄙見を訊ふ人屢有之吾足跡未
嘗て其地に到ず何ぞ由て其詳を知らん只先輩及び友人等の聞る所を録し
て以て扉を叩くの人に應ずるのみ其方憶説の覧に供せんと只当南堂と号ふ
の料と云つ可のみ

石炭及び諸金坑の利益一ならん只其人を待て行ふべきのみ故に姑く之を論ぜず

まだん 漢名玉月魚我が邦人之を蔑視すれども外国にて大嚼る佳好の交易あり

サルヂニヤ國のいわし 松前英吉利等のまだんそれ洋外諸邦通じて食料とする事其
漁獵の時を撰ひ外国の式に随て鹽漬油漬とする一交易品の一に供ふる時は其利
らさるべし

鯨獵 往年箱館在留の亜人嘗て試みれども漁人の巧者無うし故に利無く
して止みぬ然れども友人飯田叔音嘗て紀州熊野浦の鯨漁に駕して漁夫輩
を使ひ後海濱を巡見して其必利あるべきを驗定せり

材木 其多き事聘げて伐り尽すべからず

苧麻 自生の者多し織て布となすべし尚ホ布を織り紙を漉く可き植物の類皆
採りて益あるべし

滴石 漁獵を廃されそれ必ず商販すべき活物影く積累す是を和し
且雑本を焼きて灰とをりて之を加へ積みて丘の如くなし置く時は二三年の後
影き人工滴石を可得抑滴石を取りて淳土を即ち可耕線良性の土となす是
北アメリーの人工を具すのみにて一挙両得の策なり北地の気候寒くして雑穀麦
を種ゑれども必ず熟すべし且土地衝く南向人烟益多ければ気候も自ら温和
可成行灰土ありて之動物の腐朽俟ずけれども滴石を造ると易便の手段とす
て滴石を造ると易便の手段とす

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

此他若説近日續へし

五 川後船の事 本科新聞第二号記出

去ル午の夏大雨ニて所ゝ出水田地の損処夥しかりしを無ふらるる一今年夏雨降續くまゝらで損失無之方と設置せられんとせまゝなて建白をなさと楼ケて渡ゟ在ル葛氣仕掛川後船 傳蘭西名ドラゝ和蘭名バッフレモーレン を用ひて利根川を渡ふとゝそサーの費用まて莫大の利益可有之を建白し尚自ら横濱ゟ往きて此器械の風法を伝習せしゟ其儘きの神速なるやまゝ驚き

こゝを云

郡計局ニテ書是非ニテ不叶筆何方両ニテ山中村ハ田新如役ゟ

行ニ一の筋を立ゝ存ニテ年拠不行ニテ

従来の仕掛ニ中ゝ引ゟ

右ノ言ニテ細論ニ及ゟん仕何ト思ひん処

只引ニ

ゟ

茅両名 祖父母ニ人迎ひの事ニ

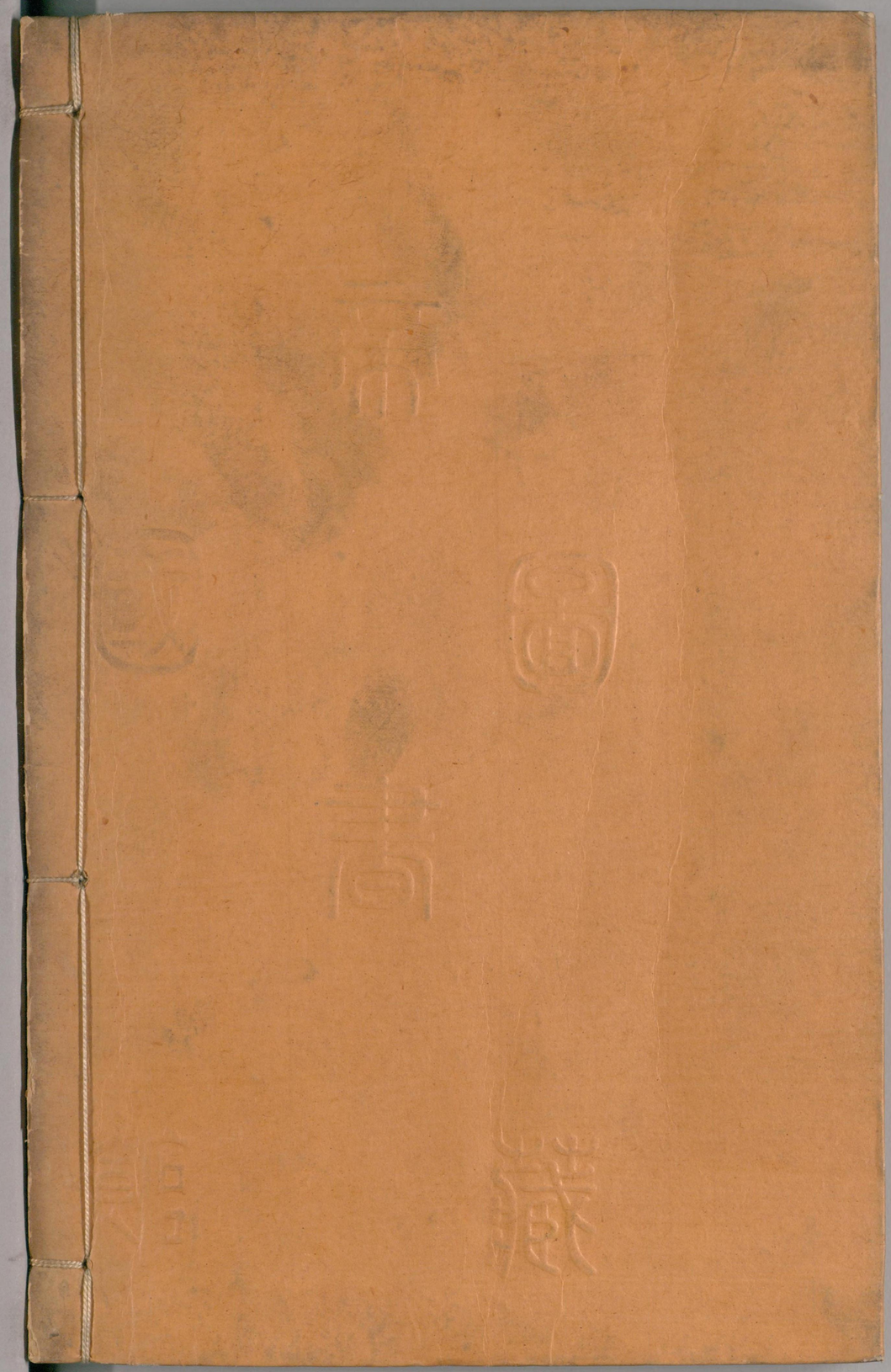
不参ニて村ゝ打ト云様ゟ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3

ガラス使用